

ISSN 2187-9982

宇都宮大学
留学生・国際交流センター一年報
2018年度

2019年8月

宇都宮大学留学生・国際交流センター

Center for International Exchange
Utsunomiya University

目次

センター長挨拶

留学生・国際交流センター長 横田 信三	1
---------------------------	---

留学生・国際交流センター年報 2018年度

I 留学生・国際交流センターの概要

1 沿革・使命	7
2 組織	8
3 年間行事	8

II 留学生・国際交流センターの活動

1 教育・授業	13
1.1 留学生・国際交流センター開講授業	13
(1)初級日本語補習	13
(2)中級日本語短期留学プログラム	13
(3)中級日本語補習	16
1.2 基盤教育および学部・大学院での授業	17
(1)基盤教育センター	17
(2)国際学部（専門科目）	17
(3)全学科目（Learning+1）	17
(4)とちぎグローバル人材育成プログラム共通科目	17
(5)国際学研究科・博士前期課程	17
(6)国際学研究科・博士後期課程	18
(7)全学科目（Advanced Learning+1）	18
(8)宇都宮大学公開講座	18
1.3 留学生プログラム	18
(1)日本語・日本文化研修留学生プログラム	18
2 相談体制・生活支援	22
2.1 基本的認識	22
2.2 相談体制	22
2.3 相談実績	23
2.4 支援活動	24
2.5 各種オリエンテーション	24
3 留学生交流支援	27
3.1 栃木県地域留学生交流推進協議会	27
3.2 交流支援事業	28
3.3 小・中・高等学校での国際交流	30
4 留学生の獲得施策	31
4.1 日本留学フェアなどへの参加	31
4.2 外国人学生への進学説明会	36

4.3	国公立大学・大学院フェア in 長沼スクール	37
4.4	JASSO 東京日本語教育センター（国際学友会日本語学校）進学説明会	38
4.5	国費学部留学生への大学進学説明会	39
4.6	交換留学生のための大学院進学説明会	40
4.7	宇都宮大学サテライト・オフィス	40
5	日本人学生の海外派遣留学の推進・支援	42
5.1	海外留学説明会	42
5.2	国際インターンシップ	44
5.3	海外渡航前危機管理オリエンテーション	46
5.4	海外英語研修	47
5.5	海外渡航危機管理サービス	50
6	各種協議会等への参加	51
6.1	平成 30 年度全国国立大学法人留学生センター長 及び留学生課長等合同会議	51
6.2	平成 30 年度国立大学法人等国際企画担当責任者連絡協議会	51
6.3	平成 30 年度第 1 回国立大学法人留学生指導研究協議会	52
6.4	平成 30 年度第 2 回国立大学留学生指導研究協議会 兼 第 50 回大阪大学留学生教育・支援協議会	53
6.5	平成 30 年度日本語・日本文化研修留学生問題に関する検討会	54
Ⅲ	教員個人活動実績	
	横田 信三	57
	湯本 浩之	61
	飯塚 明子	65
Ⅳ	資 料	
1	留学生在籍状況	71
2	国際交流協定校との受入・派遣状況一覧	72
3	留学生・国際交流センターの発行物	75

<センター長挨拶>



留学生・国際交流センター長 横田 信三

宇都宮大学「留学生・国際交流センター年報 2018 年度」が完成しましたので、お届け致します。

今年度は、宇都宮大学の国際交流を推進する、以下の大きな出来事がありました。

本学が主催する海外英語研修が、オーストラリア・サザンクロス大学（8月26日～9月10日）、及びマレーシア・サラワク大学（2019年2月7日～2月24日）で実施され、それぞれ26名及び30名の学生が参加しました。センターは、準備段階から当研修をサポートし、説明会、実施に至るまで強力にサポート致しました。また、サラワク大学の研修については、留学生・国際交流課職員1名が、引率メンバーとして同行し、学生の世話をしました。今後、より多くの海外英語研修プログラムを提供出来るよう努めていくつもりです。

昨年度に引き続き、農学部を中心として、国立研究開発法人科学技術振興機構の日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）に2件採択され、2019年1月にインドネシア・ボゴール農科大学から学生10名及び引率教員1名、2月にタイ・キングモンクット工科大学トンプリー校、ベトナム国家農業大学及びミャンマー・イエジン農業大学から、それぞれ学生5名ずつ及び引率教員1名ずつを本学に8日間受け入れました。これにより、受入学生が日本の農業に関する高度な研修を体験し、日本の文化・歴史・慣習等を学習致しました。また、研修の補助をしてくれた本学学生を中心に、学生間の有意義な交流も実施することが出来ました。今後も、このような留学生のための短期研修プログラムを継続していく必要があります。

今年度、「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム、地域人材コース」の「とちぎグローバル人材育成プログラム（上級コース）」に本学の学生1名が選出され、7月10日に、参議院議員、文部科学省、栃木県及び栃木県経済同友会からの来賓をお招きして、本学で壮行会を開催致しました。これらのプログラムを通して、本学のグローバル及びグローバル人材育成が着実に進展しています。

2019年1月31日から2月3日まで、協定校であるタイ・カセサート大学を訪問し、カセサート大学創立76周年を記念した学長フォーラムに宇都宮大学代表として出席致しました。当フォーラムは、AIの高等教育への活用と関連産業との関係に関するものでした。当大学の学長、副学長や国際担当スタッフとの懇談や、海外の協定校からのゲストとの交流を行うことが出来ました。特に、日本の協定校関係者と懇談する機会が多々あり、国際交流関係の有意義な情報交換を行うことが出来ました。

上記以外にも、様々な事業をセンターとして実施致しました。本教育研究論集・年報を御覧頂き、当センターの日頃の取組や活動を御理解頂ければ幸いです。

2019年7月 吉日

留学生・国際交流センター年報
2018年度

I 留学生・国際交流センターの概要



1 沿革・使命

宇都宮大学に在籍する外国人留学生は、正規生（学部学生及び大学院学生）及び非正規生（交換留学生、研究生及び日本語・日本文化研修留学生等）合わせて、平成 30（2018）年 10 月現在では、世界 24 カ国から 272 名の留学生が学んでいる。

留学生・国際交流センター（以下、「センター」という。）は、当初外国人留学生に対し、必要な日本語・日本事情教育及び修学・生活上の指導助言を行うとともに、留学生と地域との交流の推進や海外留学を希望する学生に対する指導助言を行うことを目的として、平成 14（2002）年 4 月に留学生センターとして設置された。

その後、平成 24（2012）年 4 月に留学生・国際交流センターへ改組し、それまでの「日本語教育運営部門」と「留学生指導・相談部門」の 2 部門に、「国際交流推進部門」を新たな部門として設置して 3 部門とし、国際交流のより積極的に具体的な業務展開を推進することとした。さらに、平成 29（2017）年 4 月に部門制を廃止し、新たな体制として各学部等の協力教員を加え、各学部等との連携を強化した。

センターには、センター長、専任教員 2 名（うち 1 名は副センター長）、センター協力教員 6 名、特命教授 1 名、コーディネーター 1 名、また事務体制として学務部留学生・国際交流課が配置され、教育、相談指導、交流事業等の業務に当たっている。主な内容は次のとおりである。

(1) 日本語の授業

センターでは、研究・交流の場や日常生活の中で円滑な意思疎通が行えるように、留学生にさまざまな学習の機会を用意している。日本語の授業は、初級から上級までをカバーし、日本語のコミュニケーション技能と、日本語で行われる学術・研究活動での表現力の向上を目指すものである。現在、全留学生を対象としたカリキュラムとともに、学部留学生や国費留学生（研究留学生、教員研修留学生、日本語・日本文化研修留学生）を対象とした授業を行っている。

(2) 相談指導

相談指導担当の教員が、修学上や生活の中で生じた問題について、留学生と話し合い、適切な助言を与えている。また、留学生、チューター指導教員の間で連携をとることにより、必要なときに適切な支援ができるシステムづくりを目指している。

(3) 交流事業

センターは、留学生と地域社会との充実した交流プログラムづくりに努めている。また、地元の国際交流団体やボランティアグループと連携することにより、交流の機会を少しでも増やそうと、地域住民に呼びかけてホームステイ体験事業を行っている。同時に多彩な文化交流活動を通じて、留学生と日本人学生の相互理解を深め異なる文化をお互いに尊敬する態度を養っている。

(4) 留学生・国際交流課

留学生・国際交流課は、学生及び教員の国際交流に関する様々な業務を行うほか、「センター」の事務も担当し、留学生が安心して勉学に専念できるよう、以下のような修学上・生活上の支援業務を行っている。

- ①奨学金に関すること
- ②国際交流会館の入退居に関すること
- ③海外留学に関すること
- ④留学生のチューターに関すること
- ⑤地域交流事業についての情報提供に関すること

2 組織

(平成 31 年 3 月 1 日)

留学生・国際交流センター教員		
センター長(農学部教授併任)	横 田 信 三	
教授(副センター長)	湯 本 浩 之	
助 教	飯 塚 明 子	
協 力 教 員	地域デザイン科学部 教授	中 村 祐 司
	地域デザイン科学部 准教授	藤 倉 修 一
	国際学部 教授	マリーケオマノータム
	国際学部 准教授	栗 原 俊 輔
	教育学部 教授	茅 野 理 子
	工学研究科 教授	長谷川 光 司
農学部 教授	安 藤 益 夫	
サテライト・オフィス(タイ・カセサート大学内)		
特 命 教 授	後 藤 章	

学務部 留学生・国際交流課	
課 長	田 崎 正 憲
国際交流企画係長	上 野 量 才
留 学 生 係 長	松 本 晴 朗
係 員	沖 杉 礼 子
事 務 補 佐 員	野 澤 慶 子
事 務 補 佐 員	長 岡 陽 子
事 務 補 佐 員	山 本 由 紀 恵
事 務 補 佐 員	阿 部 ひかり
事 務 補 佐 員	二 宮 由 美
国際インターンシップ事務室	
コ ー デ ィ ネ ー タ ー	栗 原 謙 治
事 務 補 佐 員	長 岡 陽 子

<非常勤講師>

〔日本語教育〕 石 川 美 和 八重島 炎 木 林 理 恵 野 口 芙 美
 〔Learning+1〕 綿 貫 雅 一 兒 島 建 彦

3 年間行事

<4月>

- 4日(水) 国際交流会館入居説明会
- 4日(水) 保護者向け留学情報説明会
- 5日(木) 4月来日留学生(学部留学生を除く)オリエンテーション
- 9日(月) 学部新生生向け留学情報説明会
- 9日(月) 4月来日留学生生活上の留意事項説明会/4月来日留学生歓迎会
- 10日(火) グローバル教育に関する説明会
- 11日(水) 学部1年生及び編入留学生オリエンテーション
- 13日(金) 海外留学説明会Ⅰ(峰キャンパス)
- 17日(火) 海外英語研修説明会
- 19日(木) 海外留学説明会Ⅱ(陽東キャンパス)
- 20日(金) 平成29年度春期国際インターンシップ報告会及び平成30年度夏期説明会
- 20日(金) 平成30年度留学生支援事業に関する担当者会議(主催:栃木県国際交流協会)



<5月>

- 12日(土)~13日(日) ホームステイウィークエンド in 那珂川2018(春:田植え)
(主催:那珂川町教育委員会、那珂川国際交流事業企画運営委員会)
- 26日(土) 平成30年度新規外国人留学生のためのガイダンス及び懇親パーティー
(主催:栃木県国際交流協会、栃木県地域留学生交流推進協議会)
- 29日(火) 海外英語研修募集説明会
(オーストラリア・サザンクロス大学)
- 30日(水) アメリカ・ヴィンセンス大学担当者及び学生来学



31日（水） 平成30年度夏期国際インターンシップ報告会及び春期説明会

< 11 月 >

- 9日（金） 平成30年度全国国立大学法人留学生センター長及び留学生課長等合同会議（主催：信州大学）
16日（金） 平成30年度日本語・日本文化研修留学生問題に関する検討会議（主催：大阪大学）
20日（火） 平成30年度国立大学法人等国際企画担当責任者連絡協議会（主催：横浜国立大学）
28日（水） 平成30年度留学生指導教員及び事務担当者研修会
（主催：栃木県地域留学生交流推進協議会）

< 12 月 >

- 13日（木） 外国人留学生と地域交流団体等との交流会
15日（土）～16日（日） 日本留学フェア（マレーシア）

< 1 月 >

- 11日（金） 国際交流会館退去説明会
17日（木） 平成30年度第2回海外渡航前危機管理オリエンテーション
30日（水） 平成30年度後期中級日本語短期プログラム修了発表会

< 2 月 >

- 20日（水） 栃木県地域留学生交流推進協議会運営委員会（主催：栃木県地域留学生交流推進協議会）

< 3 月 >

- 8日（金） 外国人留学生合同企業説明会&交流会（主催：栃木労働局外国人留学生就職支援協議会）
20日（水） 平成30年度第2回栃木労働局外国人留学生就職支援協議会
（主催：栃木県労働局外国人留学生就職支援協議会）

（留学生・国際交流課）



新規4月来日留学生歓迎会

Ⅱ 留学生・国際交流センターの活動

1 教育・授業

1.1 留学生・国際交流センター開講授業

(1) 初級日本語補習

平成30年度より従来の初級日本語補習に代えて、単位が取得できる正規科目として以下のような初級日本語科目を開講した。これらの科目は、宇都宮大学および各学部が交流協定を結んでいる海外の大学からの交換留学生や研究留学生などを対象としたもので、日本語の基本的な文法や語彙、表現を学びながら、聞くことや話すことを総合的に学び、日本語運用能力の向上を目的とするものである。

	科目名	単位	担当教員
前期	初級日本語ⅠA 文法・語彙①	1	石川
	初級日本語ⅠA 聴解・口語表現①	1	石川
	初級日本語ⅡA 文法・語彙②	1	木林
	初級日本語ⅡA 聴解・口語表現②	1	野口
後期	初級日本語ⅠB 文法・語彙①	1	石川
	初級日本語ⅠB 聴解・口語表現①	1	石川
	初級日本語ⅡB 文法・語彙②	1	木林
	初級日本語ⅡB 聴解・口語表現②	1	八重島

(2) 中級日本語短期留学プログラム

留学生・国際交流センターでは、平成20年4月から、「宇都宮大学中級日本語短期留学プログラム」を実施してきている。本プログラムは、本学と交流協定を締結している海外の大学から派遣された留学生を対象とした、6ヶ月～12ヶ月間の留学プログラムで、このプログラムを通して日本語能力を上げるとともに、日本社会および日本文化について理解を深めることを目的にしている。

海外の交流協定提携校から本学に派遣された外国人留学生は、日本語能力が非常に限られており、その中には、中級日本語の授業を受講できるレベル（日本語検定試験3級くらいのレベルで、日常生活面においては、簡単な買い物ができ、自分で電車に乗られるくらいのレベル）の学生が多かった。これらの留学生は、学部で提供されている普通の日本人向けの授業を受講することは非常に困難である。これらの留学生のニーズに答えるため、留学生センターでは、検討を重ねた結果、平成20年度から、交流協定を結んでいる海外の大学からの留学生を対象とする「中級日本語短期プログラム」を実施することになった。平成30年度では、28名の留学生が本プログラムを修了した。

本プログラムの目的や平成30年度の実施要領等を以下に示す。

1) 目的

宇都宮大学（以下、本学という。）短期留学プログラムは、本学と交流協定を締結している海外の大学からの留学生を対象として受け入れ、本学における日本語教育、日本文化等の授業科目を提供するための教育プログラムである。この短期留学プログラムは、日本および日本文化に対するより良き理解者としてだけでなく国際社会で活躍できる人材を育成することを目的に、6ヶ月?12ヶ月にわたり、本学での日本語教育、日本文化体験および本学の学生・教職員との交流等を実施するであり、以下の通り要領を定める。

2) 対象者

本学短期留学プログラムに出願できる者は、以下の2つの要件をすべて満たしたものとする。なお、留学生センター長が特別許可する者については、その限りではない。

- ①本学と学生交流協定を結んでいる外国の大学の正規課程に在籍している学部学生又は大学院学生。
- ②渡日前に300時間程度の日本語教育を受けている者、あるいは日本語能力試験3級に合格している者。

3) 受入れ期間

原則として、10月からの1年間、又は4月からの半年間とする。

4) 受入れ予定人数

10名～15名程度とする。

5) 修了要件

- ① 1学期において、「短期留学プログラム」のコア日本語科目の中から3科目以上を履修すること。但し、学生の日本語能力によって共通教育または国際学部で開講する日本語科目を用いて替えることが出来る。
- ② 1年間のコースにでは、年間10科目以上を履修し、且つ単位を取得すること。また、半年間のコースでは、5科目以上を履修し、且つ単位を取得すること。
- ③ 自主研究レポートを提出すること。

6) 自主研究：「短期留学生特別演習 A.B.」

留学生は担当教員と相談した上で研究テーマを決める。更に、担当教員の指導のもと、研究成果をまとめたレポートを修了時に提出する。

7) 成績評価・単位認定

この教育プログラムの受講生に対して、履修した授業科目、成績評価および単位数を記載した成績書を発行する（ただし、留学センター開講科目については留学生センター長名で発行する）。本学の発行した成績書に基づき、留学生を派遣した大学において単位認定が行われる。但し、学位取得に関する単位として認定するか否かの判断は留学生を派遣した大学に委ねる。

8) 平成 30 年度コア日本語科目

	科目の種類	科目名	単位	担当教員
前期	コア日本語科目	漢字と漢字文化	1	戚
		中級会話A（本年度は未開講）	1	石川
		中級作文A	1	八重島
		中級文法A	1	八重島
		中級聴解A	1	戚
		中級読解A	1	石川
		中級総合I	1	野口
	演習科目（必修）	短期留学生特別演習A	2	戚
後期	コア日本語科目	中級漢字	1	石川
		中級会話B	1	戚
		中級作文B	1	石川
		中級文法B	1	八重島
		中級聴解B	1	戚
		中級読解B	1	八重島
		中級総合II	1	野口
	演習科目（必修）	短期留学生特別演習B	2	戚

9) 平成 30 年度前期「中級日本語短期留学プログラム」修了発表会

①日 時：7月18日（水）16:30～18:30

②会 場：5号館C棟4階国際交流学習室

③プログラム（敬称略）：

1) 開会の辞：留学生・国際交流センター長 横田 信三

2) 発表題目

a. カンボジアの学校教育と日本の学校教育に関する一考察

..... キアン・リーダー（国際学部 交換留学生）

b. 日本とカンボジアの相違点；宗教と食文化を中心に ボー・シネット（国際学部 交換留学生）

c. 鍋貼（焼き餃子）にみる台湾の食文化子 陽 智寧（国際学部 交換留学生）

d. ソンクラーン祭りとロイクラトン祭りに見るタイの文化

..... アヂゲンワラーナン・ナパットパパー（国際学部 交換留学生）

e. 日本と中国のお正月について 張 源菲（国際学部 交換留学生）

f. 日中のアニメ映画に関する比較：『西遊記ヒーロー・イズ・バック』と

『ハウルの動く城』を例に 馬 玥（国際学部 交換留学生）

g. ユーチューブの登場と動画の時代 KWON MINA（国際学部 交換留学生）

h. 宇都宮大学における鳥類の多様性に関する一考察 リ・ソウシン（農学部 交換留学生）

i. 神道・神社と日本人：宇都宮市を例に 張 慧伶（国際学部 交換留学生）

j. 台湾音楽市場の現状分析 郭 怡静（国際学部 交換留学生）

k. 日本のライトノベルの影響による台湾のライトノベルの発展

..... 紀 錦憶（国際学部 交換留学生）

l. 日本語と縦書き チャン ユンヨン（国際学部 交換留学生）

m. 日本の若者の間で氾濫するカタカナ語と言葉の盛衰 石 一岑（国際学部 交換留学生）

n. 南北朝・唐時代の中国建築と日本の古い建築について 蔡 鈺（工学部 交換留学生）

o. チェコから見る日本のまちづくりの特徴 バフティーク・アレシュ（国際学部 交換留学生）

【Special Guest Presenter】

Tensions between Japan and its neighbors in the Asia Pacific Region created in the 20th century

..... Emma Reynolds（国際学部 交換留学生）

3) 質疑応答

4) 総評：「中級日本語短期留学プログラム」コーディネーター 戚 傑



修了発表風景



修了発表会場風景

10) 平成 29 年度後期「中級日本語短期留学プログラム」修了発表会

①日 時：1 月 30 日（水） 16:20 ～ 18:30

②会 場：5 号館 C 棟 4 階国際交流学習室

③プログラム（敬称略）：

1) 開会の辞：留学生・国際交流センター長 横田信三先生

2) 発表題目

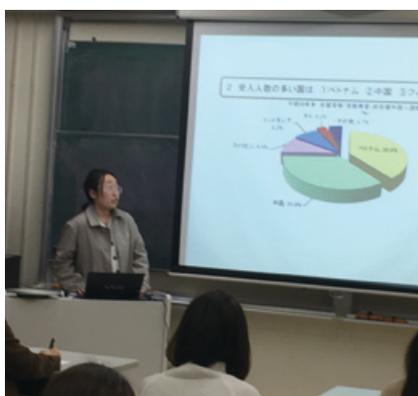
- a. ゆとり教育について ユン ダウオン（国際学部 交換留学生）
- b. 日本と台湾における大学サークル文化の相違点について 鄭 宇翔（国際学部 交換留学生）
- c. 「外国人技能実習制度」の問題点 邱 楚晴（国際学部 交換留学生）
- d. 日本の裁判員裁判と韓国の国民参与裁判との比較 YIM DAM（国際学部 交換留学生）
- e. 廃棄物処理と日本におけるリサイクルの方法 レ・ディタオリン（国際学部 交換留学生）
- f. 日本語のオノマトペ ゴ・フォン・ズン（国際学部 交換留学生）
- g. 日本語能力試験に関する一考察 周 玉琴（国際学部 交換留学生）
- h. 桜と日本人 史 記叟（国際学部 交換留学生）
- i. 日本の洋食 張 見維（国際学部 交換留学生）
- j. 台湾と日本の食文化の相違点について 陳 庭蓁（国際学部 交換留学生）
- k. 風邪の治療と予防 パク・スジン（国際学部 交換留学生）
- l. レイトレーシングおよび大城照明 江 兪慶（工学研究科 交換留学生）
- m. 運動の休息と体系化 SEO YOUNGCHAN（工学部 交換留学生）

3) 質疑応答

4) 総評：「中級日本語短期留学プログラム」コーディネーター 戚 傑



開会の辞：横田センター長



修了発表風景



修了発表会場風景

(3) 中級日本語補習

中級日本語補習は、初級レベルを終了した学生が、文法・対話・読解・作文の4つの基本的な技能を総合的に学べるように構成された日本語科目群で、中級レベルの日本語能力を養成することを目的としている。

本学で学ぶ留学生の数が年々増加しており、大学院生と学科・学部研究生は留学生の約半分を占めている。大学院生と学科・学部研究生の中に、日本語授業の単位修得を目的としていないが、日本語を勉強したい学生も大勢いる。中級日本語補習は、宇都宮大学に在籍するこれらの大学院外国人留学生と学科・学部研究生（科目等履修生を除く）を対象に開講する無単位の日本語教育科目である。

平成 30 年度は、前期に「中級日本語補習：総合 A」（担当：八重島）、「中級日本語補習：聴解と会話 A」（八重島）、「中級日本語補習：読解と作文 A」（担当：石川）、「中級日本語補習：学術日本語 I」（木林）を、後期に「中級日本語補習：学術日本語 II」（担当：野口）の 5 コマの授業を開講した。

（戚・湯本 記）



1.2 基盤教育および学部・大学院での授業

留学生・国際交流センターの教員は、基盤教育センターをはじめ、国際学部や国際学研究科をはじめ、全学科目の Learning+1 などにおいて授業科目を担当している。平成 30 年度にセンター所属の専任教員および非常勤講師が開講または担当した授業科目は以下の通りである。

(1) 基盤教育センター

学期	科目名	担当教員	備考
前期	ワークショップで学ぶ「変わりゆく現代社会の中の私たち」	湯本	
	災害に強いコミュニティづくり	飯塚	
	3.11 学問の不確かさ	清水 (国際)	第 13 回担当 (飯塚)
後期	ワークショップで学ぶ「ボランティアと市民活動」	湯本	

(2) 国際学部 (専門科目)

学期	科目名	担当教員	備考
前期	グローバル実践力基礎演習	清水ほか	第 3 回担当 (湯本)
	グローバルイシュー研究演習 I	重田・湯本・阪本	2 年次配当
	国際協力研究演習 F (グローバル教育論演習)	湯本	3 年前期
後期	グローバルイシュー研究演習 II	重田・湯本・阪本	2 年次配当
	グローバル教育論	湯本	2 年次配当
	卒業研究準備演習	湯本	3 年後期
集中	国際キャリア教育	湯本・飯塚ほか	夏期合宿セミナー
	国際キャリア実習 (海外インターンシップ)	重田・湯本・栗原	夏期と春期の年 2 回
通年	卒業研究 I・II	湯本	卒業論文指導

(3) 全学科目 (Learning+1)

学期	科目名	担当教員	備考
後期	海外英語研修 (マレーシア)	飯塚ほか	
不定時	国際インターンシップ	湯本・飯塚他	夏期と春期の年 2 回
集中	Globalization and Society	湯本	英語で行う集中講義
	Risk Management	飯塚	英語で行う集中講義
	グローバル化の進展と日本の展望	綿貫	日本語と英語で行う集中講義
	Sustainable Development Issues	綿貫	英語で行う集中講義
	International Political Economics	兒嶋	英語で行う集中講義

(4) とちぎグローバル人材育成プログラム共通科目

学期	科目名	担当教員	備考
集中	Globalization and Society	湯本	英語で行う集中講義
	Risk Management	飯塚	英語で行う集中講義
	グローバル化の進展と日本の展望	綿貫	日本語と英語で行う集中講義
	Global Sustainable Development Issues	綿貫	英語で行う集中講義

(5) 国際学研究科・博士前期課程

学期	科目名	担当教員	備考
後期	グローバル教育研究	湯本	
通年	国際学臨地研究	湯本	
	国際交流特別研究/国際社会特別研究	湯本	修士論文指導

(6) 国際学研究科・博士後期課程

学期	科目名	担当教員	備考
前期	国際学基礎演習	湯本ほか	コーディネーターを担当
後期	国際教育政策研究	湯本	

(7) 全学科目 (Advanced Learning+1)

学期	科目名	担当教員	備考
集中	Globalization and Society	湯本	英語で行う集中講義

(8) 宇都宮大学公開講座

学期	科目名	担当教員	備考
前期	栃木で考える防災と災害復興	長谷川 (教育)	第4回担当 (飯塚)

(湯本・飯塚 記)

1.3 留学生プログラム

(1) 日本語・日本文化研修留学生プログラム

留学生・国際交流センターでは旧称「留学生センター」として発足以来、文部科学省の国費留学生である「日本語・日本文化研修留学生」(略称「日研生」)を毎年受け入れている。

日研生は10月に来日後、必修科目4科目、および基盤教育科目、各学部専門科目、留学生・国際交流センター科目の中から自分の研修テーマに関連する選択科目12科目を履修する。そして、日本語能力の向上と日本文化に関する専門知識の深化を図るとともに、担当教員や指導教員の下で研修を進め、帰国までにその成果を研修レポートとして提出する。

1) 授業科目

科目種別	学期	授業科目名	単位数	開講部局
必修科目 (4科目)	前期 (※1)	「日本語・日本文化Ⅱ」	2	留学生・国際交流センター
		「日研生特別研究Ⅱ」	2	留学生・国際交流センター
	後期 (※2)	「日本語・日本文化Ⅰ」	2	留学生・国際交流センター
		「日研生特別研究Ⅰ」	2	留学生・国際交流センター
選択科目 (12科目)	上級レベル日本語科目	日本語アカデミック・リーディングⅡ	1	基盤教育センター
		日本語アカデミック・プレゼンテーション	1	基盤教育センター
		科学技術のための専門日本語	1	基盤教育センター
		人文社会系のための専門日本語	1	基盤教育センター
	言語・日本文化 関連の科目	日本事情	2	基盤教育センター
		Japanese Communication Arts	2	基盤教育センター
		多言語コミュニケーション学A	2	基盤教育センター
		多言語コミュニケーション学B	2	基盤教育センター
		日本語の表記	2	基盤教育センター
		Globalization and Society	2	国際学部
		グローバル教育論	2	国際学部
		移民と多文化教育	2	国際学部
		日本語論	2	国際学部
		日本語史	2	国際学部
		対象言語学	2	国際学部
		日本文化論	2	国際学部
		異文化間コミュニケーション	2	国際学部
		日本文学史	2	教育学部
		日本文学概説A	2	教育学部

※1 前期：平成 29 (2017-2018) 年度日研生対象

※2 後期：平成 30 (2018-2019) 年度日研生対象

2) 日本語・日本文化研修留学生修了レポート発表会

2017年9月末に、中国、香港、ベトナムの3か国から計3名の日研究生が来日したが、2018年8月に、1年間の研修成果をまとめた修了レポート発表会を開催し、1年間のプログラムを無事に修了した。かれらの研修テーマは以下の通りであったが、日本語や日本文化に関するたいへんユニークなテーマが取り上げられており、学生たちの日本文化や日本社会に対する関心の高さをうかがうことができた。なお、同年12月に修了レポート集を発行したので、詳細は同レポートを参照されたい。

<実施概要>

日 時：2017年8月2日（木） 16：10～17：40

会 場：峰キャンパス 5号館C棟4階国際交流学習室

内 容：(司会) 飯塚 明子 (「日研究生プログラム」担当教員)

①開会の辞：横田 信三 (留学生・国際交流センターセンター長)

②修了レポート発表：

1) 「キリスト教の時代変化：日本と韓国との歴史的な比較と現在の特徴」…………… 金 智潤 (キム・ジユン、韓国)

(講 評) 丁 貴連 (指導教員・国際学部)

2) 「長生きに対する意識から見る大学生の死生観」

…………… 唐 懿昕 (トウ・イキン、中国)

(講 評) 横田 信三

3) 「現代中国語の『着』と日本語『ている』英語『be-ing』との比較：アスペクトの観点を中心に」

…………… 楊 璐丹 (ヨウ・ロタン、中国)

(講 評) 高山 道代 (指導教員・国際学部)

4) 「日本語発音能力に対する意識の違いに影響を及ぼしている要因：タイ人学習者の場合」

…………… Sattasomboon Sutthinee (サッターソムブーン・スッティニー、タイ)

(講 評) 吉田 一彦 (指導教員・国際学部)

5) 「産業遺産・環境学習のまち足尾の歴史・現状・今後」

…………… Leung Hai Wah (レン・ハイワ、香港)

(講 評) 田巻 松雄 (指導教員・国際学部)

6) 「日本人の子どもの教育」… Ismoilov Khushbakht (イスモイロフ・フシバフト、タジキスタン)

(講 評) 大野 齊子 (指導教員・国際学部)

③閉会の辞：湯本 浩之 (「日本語・日本文化研修留学生プログラム」担当教員)

3) 平成30年度日本語・日本文化研修留学生の受け入れ

2018年9月末に、平成30年度の日本語・日本文化研修留学生(日研究生)4名が来日した。大学歴の後期にあたる研修前半(10月～3月)では、日本語・日本文化研修留学生プログラムの必修科目「日本語・日本文化I」および「日研究生特別研究I」の学外研修として「合同学外研修」を実施したほか、以下のような他部局の主催によるプログラムに参加した。

なお、後期の授業終了時点(2019年1月)での研修テーマは、末尾にある通りである。研修後期にあたる来年度前半は、さらにテーマを検討しながら修了レポートを執筆していくこととなる。



修了レポート発表



発表会の様子

①合同学外研修

新規に来日した日研 4 名を対象に、主に日本文化理解や宇都宮市内の史跡理解を図ることを目的とした学外研修を「日本語・日本文化 I」および「日研生特別研究 I」の 2 つの必修科目の合同で実施した。なお、移動に際しては、本学の共用車を利用した。

<実施概要>

日 時：2018 年 11 月 22 日（木） 9:00～16:00

研 修 先：①大谷資料館、②大谷寺・大谷観音、③うつのみや遺跡の広場資料館

参 加 者：日研生 3 名（1 名は不参加）

引率教員：湯本浩之・飯塚明子・木林理恵



大谷資料館にて



うつのみや遺跡の広場にて

②フィールドワーク&シンポジウム「国際交流都市日光の再発見」

国際学部附属多文化公共圏センターと日光市国際交流協会が共催した標記のフィールドワークとシンポジウムに参加した。このプログラムは、宇大の留学生や海外体験のある学生を対象に、日光市足尾地区の各エリアを回り、地元の関係者と交流しながら、「歴史を活かした観光地」としての足尾の魅力を、①国際観光開発、②国際交流、③環境学習の 3 つの視点から再発見し、今後に向けた提言を行うことを目的としたものである。

<実施概要>

日 時：2018 年 11 月 11 日（日）、17 日（土）および 12 月 15 日（土）

主 催：国際学部附属多文化公共圏センター・日光市国際交流協会

参加者：日研生 4 名

引率者：湯本浩之・飯塚明子

内 容：

1. 第 1 回フィールドワーク（11 月 11 日）

午前：足尾行政センターにてオリエンテーション

午後：フィールドワーク（銅山坑内観光や足尾歴史館）

2. 第 2 回フィールドワーク（11 月 17 日）

午前：足尾銅山跡地、古河掛水倶楽部、松木溪谷を見学

午後：（環境グループ）

- ・松木溪谷にて植林活動
- ・NPO 法人足尾に緑を育てる会関係者に聞き取り（観光グループ）
- ・足尾地区の商店街や観光施設で聞き取り調査



オリエンテーションの様子

3. 公開シンポジウム

日時：12月15日（土）10:00～13:00

会場：宇都宮大学・大学会館2階多目的ホール

内容：①講演（敬称略）

「足尾地区における歴史とまちづくり」

山田功（足尾まると井戸端会議代表）

「足尾銅山鉱毒事件の今日的意義」

高橋若菜（宇都宮大学国際学部准教授）

②留学生によるプレゼンテーション

「足尾の歴史を活かした観光地づくり」のための
提言をグループ毎に発表。



足尾坑内観光の前で

③平成30年度日研生の研修テーマ（2019年3月現在）

名前	国籍	大学名	研修テーマ
周慧毓（シュウ・ケイイク）	中国	寧波大学	手帳から見た日本文化
舒立言（ジョウ・リツゲン）	中国	電子科技大学	日本人の残業と過労死
アロムコン・キッタパート	タイ	カセサート大学	栃木県の魅力
アレハンドロ・G・コステ	ドイツ	エアランゲン大学	日本人が持つ広告中の女性像についての印象

（湯本・飯塚 記）

2 相談体制・生活支援

2.1 基本的認識

下記の〔事前の対策〕と〔様々な制約の中での適切・迅速な対応〕については、毎号ほぼ同じ文章を掲載している。これは、留学生・国際交流センターが実施する「相談・指導」の根本に関わるからである。

〔事前の対策〕

留学生の置かれている立場は不安定なものである。一見何の問題もなく、元気で楽しく過ごしているようにみえる留学生でも、日本という「異国=外国」での生活は母国同様であるはずがなく、常にストレスと隣り合わせの毎日である。留学生と接する教員・職員は、このことを基本的認識として心にとどめ、日頃から彼らの行動や表情に注意を払う必要があるだろう。そして何らかの変化が見えたとき、留学生に歩み寄り、その変化に危険な要素が含まれていないかどうかを確認することが常に求められている。つまり、すでに起こってしまった問題にどのように対処するかということ以前に、問題を起こさないための事前の解決が極めて重要な任務となる。

〔様々な制約の中での適切・迅速な対応〕

しかしながら、全ての留学生にまんべんなく接することは不可能と言わざるをえない。そこから何らかの問題が生ずることは避けられない事実でもある。実際のところ、大学が提供している生活環境、就学環境は、残念ながら必ずしも適正なものとはいいがたい。それが原因となり留学生の心理が揺らぎ、留学生の生活に重大な影響を与えることもありうる。留学生を取り巻く環境を改善するには多額の資金が必要となり、大学全体として取り組む姿勢が十分整っていない現実は遺憾と言わざるをえないが、そうした状況であっても、留学生と接する教員・職員は、むしろその中でより良い相談体制、より良い生活支援はどうあるべきかを考えると同時に、様々な制約下の現状でも実践できるものを実践して行くという姿勢が必要である。特に深刻な問題を抱える留学生に対しては、解決に向けて適切に対応し、迅速に行動することが求められる。

(横田 記)

2.2 相談体制

留学生・国際交流センター専任教員2名が、生活・就学相談の担当者である。授業中、または授業の前後に何気なく交わす会話も重要である。「相談」と改まって構えるのではなく、留学生が言葉で表すことができない、その時々々の心理状態を自然な対応で探ることが出来るからである。それにより、深刻な事態になる以前に留学生の気がかり、不安、現実的な問題を取り除く役割を果たしている。

2名の教員各自がオフィスアワーを設け、出来る限り留学生の相談に乗れる体制も取っている。留学生は、このオフィスアワーに、授業等で接する機会の多い教員の所へ相談に行く傾向がある。その際、留学生によっては長い滞在中、精神的に不安定な状態に陥る者もある。これはかなり深刻なケースであり、そのような場合、彼らは相談相手として先ず自分が最も信頼でき、しかも母国語でコミュニケーション出来る人を求める。当センターの2名の教員とも、英語に堪能であり、実際に、深刻な問題を抱えて担当教員を訪れた留学生もいる。言語に関しては完璧とまでは行かないまでも、ある程度整った環境であると判断される。

留学生・国際交流課の職員も、留学生の相談に大きな役割を果たしている。彼らが諸手続等を行うために留学生・国際交流課の窓口に来た際、積極的に留学生に話しかけ、心配事、相談したいことがないかどうか、常に配慮している。特に、交通事故、病気などの連絡が入った場合、休日を問わず、留学生をサポート出来る体制となっている。また、英語及び中国語に堪能な職員が数名おり、留学生のサポート体制を強化している。

留学生国際交流会館に居住する留学生に対しては、センター教員及び協力教員が相談担当者となっている。

4月及び10月の週に1日、夕方から数時間、これらの教員が交代で会館に向いて留学生の相談に当たっている。

この様に、相談体制については、相談・指導担当の教員だけでなく、センターの教員・協力教員・職員が総動員で当たっている現状である。

【平成30年度留学生・国際交流センター専任教員のオフィスアワー】

曜日 教員名	月 MON	火 TUE	水 WED	木 THU	金 FRI	E-mail *@以下は、 cc.utsunomiya-u.ac.jp
湯本		12:00～13:00				yumoto@
飯塚			10:00～12:00			iizuka@

2.3 相談実績

留学生・国際交流センターでは、留学生の様々な生活上の問題について相談を受けるのは当然のことながら、それに加えて日本人学生の留学関連の相談や、留学生と日本人学生の交友・交流に関するアイデア、企画に関する相談等も行っている。以前は、個々の相談に関する情報（日時、内容、留学生・日本人学生等の種別）を表で示していたが、実際に行った相談を全て記録することが実質的に不可能なので、2011年号以降、表による実績表示を止めている。相談・指導と言っても、教員は授業等の大学における通常の主要業務にも携わっており、主に時間的理由により後回しとなり、重要であるなしに関わらず、また、手抜きということではなく、記録漏れとなってしまふ。また、近年ではメールや電話による連絡、問い合わせ、または相談が増加しており、これらを全て完璧に記録できる状況ではない。このような場合における対応の仕方は、大学全体として考えて行く必要がある。

主な相談内容は次のとおり。

〔留学生〕

修学・学習／進学（大学院受験等）／アルバイト／奨学金／各種保証人／ビザ取得

〔日本人学生〕

留学相談（留学先の情報、留学前の学習、各種書類作成）／チューター関連／留学生との交流

上記以外に、個々の教員が個別に相談・指導に当たっていることは既に記述した通りである。例えば、レポートや論文の書き方指導・添削、授業関連の相談等は、個々の教員が行っている場合が多く、その方がより効率的である。

留学生の相談で深刻なものは、やはり経済的な問題である。特に、奨学金や入寮に関するものが重要なものである。例えば、本国からの仕送りも十分ではなく、奨学金も受給できず、授業料免除も受けられず、学生寮（国際交流会館）にも入れず、また、条件の良いアルバイトが見つけにくい、または病気・事故で身体を壊してしまい、アルバイトが出来ないという場合である。このような場合が、考えられる最悪のものである。実際、このような状況に置かれる留学生が毎年少なくとも1～2名おり、相談に当たることになる。その場合、個人的にはただ話を聞くのみで、根本的な解決に結びつくようなことは何も出来ないのが実情である。しかし、学生寮については第1寮においては6室、第2寮においては4室、留学生が入寮できる体制になっている。所謂、学生寮の「混住化」である。1年以上の長期間滞在する留学生の場合、国際交流会館には1年間しか居住できず、それ以後は高額な民間のアパート等に引っ越すしかなかったが、「混住化」により比較的安価な学生寮に住むことが可能になった。しかし、第1寮及び第2寮の4室とも満室の状態であり、さらに混住用の部屋を

増やす必要がある。また、大学近辺の比較的安価なアパートをまとめて大学として契約し、これを留学生用の住居に充てることも検討する必要がある。いずれにしても、大学が、留学生の経済面を考慮した支援体制をより一層充実させて行くよう、センターとして積極的に働きかけて行きたい。

(留学生・国際交流課)

2.4 支援活動

(1) 留学生アドバイザー

本学の在學生で、日本人学生と外国人留学生間の交流促進のため、各種イベントを企画・実施している。留学生アドバイザーには、海外留学経験者や海外留学予定者の他、外国人留学生も含まれている。留学生・国際交流センター等が実施する留学生関連の交流会や、留学生の生活上のサポート等にも協力するなど、幅広く活動している。

(2) チューター

外国人留学生に対し、各留学生の学習・研究指導(予習・復習の手伝い)を中心に、日本語指導、日常の世話(学内外の案内、諸手続き、買い物、宿舎探しの補助等)を行う。チューターの支援を必要とする留学生ごとに、留学生の専門や出身国及び語学力等を勘案し、チューター1名を割り当てている。チューターは、留学生が大学院生・研究生の場合は入学後最初の1年以内、学部生の場合には最初の2年以内で、指導教員の判断により必要と認める期間配置されている。

(留学生・国際交流課)

2.5 各種オリエンテーション

外国人留学生に対しては、交換留学生や学部新入学生を対象に、宇～宮大学において勉学する際に必要な日本語科目、基盤教育関係科目、日本での生活をする上での諸注意等に関するオリエンテーション及び説明会等を以下の通り実施した。

(1) 国際交流会館入居説明会

- ①日 時：平成30年4月4日(水)
- ②場 所：国際交流会館集会室
- ③内 容：国際交流会館における生活上の留意事項

(2) 4月来日留学生(学部留学生を除く)オリエンテーション

- ①日 時：平成30年4月5日(木) 14:30～17:50
- ②場 所：峰キャンパス 4A35教室
- ③内 容：1) 横田センター長のお話 2) 教員の紹介 3) 職員の紹介
4) 日本で生活する際に注意すべき大事なこと 5) 授業登録及び授業スケジュール等
6) 日本語の授業について 7) 中級日本語短期留学プログラム説明会

**(3) 4 月来日留学生生活上の留意事項説明会**

- ①日 時：平成 30 年 4 月 9 日（月） 15：00～16：30
- ②場 所：峰キャンパス 4A35 教室
- ③内 容：1) 留学生・国際交流センター長挨拶 2) 日本で生活する際に注意すべき大事なこと
3) 交通の決まり、防犯について（宇都宮東警察署から）

(4) 4 月来日留学生歓迎会

- ①日 時：平成 30 年 4 月 9 日（月） 17：45～19：00
- ②場 所：大学会館 1 階食堂
- ③内 容：1) 学長及び関係教員挨拶 2) 新規来日留学生自己紹介 3) 懇談

(5) 学部新入学生オリエンテーション

- ①日 時：平成 30 年 4 月 11 日（水） 17：45～18：20
- ②場 所：峰キャンパス 4A35 教室
- ③内 容：1) 留学生・国際交流センター長挨拶 2) 留学生日本語科目について
3) 大学生活について

(6) 国際交流会館退去説明会

- ①日 時：平成 30 年 7 月 13 日（金） 15：00～16：00
- ②場 所：国際交流会館集会室
- ③内 容：1) 航空券の手配 2) 国際交流会館での退去各種手続 3) 国際交流会館以外での各種手続

(7) 平成 30 年度交換留学生のための大学院進学説明会

- ①日 時：平成 30 年 7 月 18 日（水） 16：00～16：30
- ②場 所：峰キャンパス 国際交流学習室
- ③内 容：1) 留学生・国際交流センター副センター長挨拶 2) 各研究科の紹介
3) 各研究科の入試日程等

(8) 10 月来日留学生オリエンテーション

- ①日 時：平成 30 年 9 月 28 日（金） 14：30～16：50
- ②場 所：峰キャンパス 4A35 教室
- ③内 容：1) 横田センター長のお話 2) 教員の紹介 3) 職員の紹介
4) 日本で生活する際に注意すべき大事なこと 5) 授業登録及び授業スケジュール等
6) 日本語の授業について 7) 日本語・日本文化研修プログラム説明会
8) 中級日本語短期留学プログラム説明会

(9) 国際交流会館入居説明会

- ①日 時：平成 30 年 9 月 29 日（土） 10：00～11：00
- ②場 所：国際交流会館集会室
- ③内 容：国際交流会館における生活上の留意事項

(10) 10 月来日留学生生活上の注意事項説明会

- ①日 時：平成 30 年 10 月 1 日（月） 14：30～16：00
- ②場 所：峰キャンパス 4A35 教室
- ③内 容：1) 留学生・国際交流センター長挨拶
2) 交通のきまり、防犯について（宇都宮東警察署から）
3) 日本で生活する際に注意すべき大事なこと

(11) 10 月新規来日留学生歓迎会

- ①日 時：平成 30 年 10 月 1 日（月） 18：00～19：20
- ②場 所：大学会館 2 階多目的ホール
- ③内 容：1) 学長及び関係教員挨拶 2) 新規来日留学生自己紹介 3) 懇談

(12) 国際交流会館退去説明会

- ①日 時：平成 31 年 1 月 11 日（金） 15：00～16：00
- ②場 所：国際交流会館集会室
- ③内 容：1) 航空券の手配 2) 国際交流会館での退去各種手続
3) 国際交流会館以外での各種手続

（留学生・国際交流課）



10 月新規来日留学生歓迎会（10 月 1 日）



3 留学生交流支援

3.1 栃木県地域留学生交流推進協議会

本協議会は、栃木県における留学生等の円滑な受入の促進と交流活動の推進を図り、地域住民の国際理解に寄与するために設立されたもので、県内の高等教育機関、国の機関、地方公共団体、経済団体及び国際交流団体等で構成されている。本学が事務局となっており、本年度は6月に総会、2月に運営委員会を開催した。

(1) 栃木県地域留学生交流推進協議会総会

- ①開催日時：平成30年6月14日（木）15：30～
- ②議 題：1) 平成29年度栃木県地域留学生交流推進協議会実施事業について
2) 平成29年度本推進協議会実施事業経費決算について
3) 平成30年度本推進協議会実施事業計画（案）について
4) 平成30年度本推進協議会実施事業経費予算（案）について
5) 平成30年度本推進協議会感謝状贈呈候補者（案）について
6) その他
- ③報告事項：1) 平成29年度県内各種団体等による主な外国人留学生交流・支援事業について
2) 本推進協議会事業会計に係る平成30・31年度監査員について
3) その他

(2) 栃木県地域留学生交流推進協議会・運営委員会

本運営委員会は、栃木県地域留学生交流推進協議会規約（以下「協議会規約」という。）第8条第2項の規定に基づき設置され、協議会規約第3条に規定する協議事項について、具体的な実施方策を協議している。

- ①開催日時：平成31年2月20日（水）15：30～
- ②議 題：1) 平成30年度本推進協議会実施事業について
2) 平成30年度本推進協議会実施事業経費決算について
3) 平成31年度本推進協議会実施事業計画（案）について
4) 平成31年度本推進協議会実施事業経費予算（案）について
5) 平成31年度本推進協議会感謝状贈呈候補者について
6) その他
- ③報告事項：1) 平成30年度県内各種団体等による主な外国人留学生交流・支援事業について
2) 本推進協議会事業経費に係る平成30・31年度監査員について
3) その他

(3) 留学生指導教員及び事務担当者研修会

本研修会は、栃木県内の大学、短期大学、高等専門学校において、留学生に対する教育、指導・相談を担当する教職員が一同に会し、留学生の受入れ・派遣における教職員相互の協力のあり方等について討議することにより、今後の留学生指導・支援の充実に資することを目的として、本「推進協議会」が開催するものである。本年度は、以下のとおり研修会を実施した。

- ①開催日時：平成30年11月28日（水）13：30～15：30
- ②講 義：出入国管理手続きについて
- ③情報交換：1) 学生食堂のハラルフード対応について
2) 祈祷室について

- 3) 留学生の下宿先の管理人等からの苦情への対応について
- 4) 入学して間もなく、出産を理由に休学する学生について
- 5) 出願時の在留期限に係る基準及び入学した後「留学」の在留・資格外活動時間の超過に伴い在留資格更新不許可となった学生への対応について
- 6) 「在留資格認定証明書交付申請書 (COE)」「在留期間更新許可申請」の申請時期と提出書類 (国別に異なる資料を用意しているか等) について
- 7) 留学生向けのガイドブック作成及び HP 掲載有無について
- 8) その他情報交換

3.2 交流支援事業

(1) 平成 30 年度新規留学生のためのガイダンス及び懇親ティーパーティー

①開催日時：平成 30 年 5 月 26 日 (土) 10:30 ~ 14:00

②実施内容：

地域留学生交流推進協議会及び公益財団法人栃木県国際交流協会共催による平成 30 年度新規留学生のためのガイダンス及び懇親ティーパーティーを開催し、留学生及び関係者約 70 名が参加した。



懇親ティーパーティー

(2) 平成 30 年度留学生との交流会

①開催日時：平成 30 年 6 月 14 日 (木) 17:10 ~ 18:40

②実施内容：

宇都宮大学内において地域留学生交流推進協議会主催による交流会を開催し、県内高等教育機関に在籍する留学生約 70 名、栃木県地域留学生交流推進協議会構成員及び宇都宮大学教職員等計約 30 名が参加した。



留学生との交流会

(3) 県内留学生ホームステイ・プログラム

日本の家庭での日常生活を体験することを通して留学生と県民の交流を図り、相互理解を促進することを目的に、栃木県地域留学生交流推進協議会と協議会の構成員である (財) 栃木県国際交流協会との共催で、県内大学等に在学する留学生を対象としたホームステイ・プログラムを毎年実施している。

本年度は、栃木県内のホストファミリーの協力を得て 1 泊 2 日の日程で実施し、留学生は日本家庭の生活を体験した。

①開催日時：平成 30 年 10 月 20 日 (土) ~ 10 月 21 日 (日)

②場 所：県内各地のホストファミリー宅

③参加者数：留学生 13 名、ホストファミリー 14 家庭

(4) 外国人留学生と地域交流団体等との交流会

国際理解、異文化交流の推進に寄与するため、留学生への日本文化の紹介・体験、地域交流団体の方々との異文化交流等を毎年行っている。本年度は、モンゴル、メキシコ、イギリス、スロバキアなど12カ国からの留学生、近隣自治会、国際交流団体の関係者及び教職員等多くの参加を得て実施した。

①開催日時：平成30年12月13日（木）14:00～18:30

②場 所：大学会館（多目的ホール・和室・トークルーム）

③参加者数：約130名

④プログラム：14:30～16:00 日本文化体験（和服の着付け・茶道・華道・折り紙）

16:00～18:30 国際交流パーティー



日本文化体験（茶道）



日本文化体験（華道）



国際交流パーティー

(留学生・国際交流課)

3.3 小・中・高等学校での国際交流

栃木県内の小・中・高校からの要請により、本学の留学生を各学校の授業にゲストとして派遣し、交流や対話の場を提供している。留学生と児童・生徒が直接触れ合う国際交流を通じて、留学生にとっても日本の児童・生徒にとっても、異文化理解や異文化コミュニケーションを図る上での貴重な機会となっているとの評価が各学校から寄せられている。交流内容は様々であるが、予め派遣する留学生の国籍を伝えておくことで、児童・生徒にその国について予習させることができ、交流時には予習した知識から留学生に多くの質問が活発に寄せられる。留学生にとっても母国の良さを改めて感じる良い機会となっている。

<交流実績：計 4 件>

(1) 栃木県立宇都宮商業高等学校

- ①日 程：平成 30 年 9 月 8 日（土）、10 月 6 日（土） ②派遣人数：台湾人留学生 6 名
- ③交流内容：中国語の日常会話授業及び生活習慣紹介

(2) 栃木県立栃木翔南高等学校

- ①日 程：平成 30 年 12 月 11 日（火） ②派遣人数：留学生 5 名
- ③交流内容：日本語で母国のプレゼンテーション発表、ディスカッション

(3) 栃木県立宇都宮高等学校

- ①日 程：平成 30 年 12 月 17 日（月） ②派遣人数：留学生 7 名
- ③交流内容：日本語で母国のプレゼンテーション発表、ディスカッション

(4) 宇都宮大学教育学部附属中学校

- ①日 程：平成 31 年 2 月 14 日（木） ②派遣人数：留学生 5 名
- ③交流内容：日本語で母国のプレゼンテーション発表、ディスカッション



宇都宮高校での国際交流



栃木翔南高校での国際交流

(留学生・国際交流課)



4 留学生の獲得施策

4.1 日本留学フェアなどへの参加

留学生・国際交流センターでは、日本学生支援機構（JASSO）主催による日本留学フェアに毎年参加しているが、本年度は、タイ、ベトナム、マレーシアの3カ国で開催された日本留学フェアに参加し、それぞれのフェアに本学の教職員を派遣した。

(1) タイ

タイのバンコクで開催された日本留学フェアでの実施の概要は次の通りである。

1) 主催等

- ①主催：独立行政法人日本学生支援機構
- ②共催：タイ国元日本留学生協会（OJSAT：Old Japan Students' Association、Thailand）
- ③後援：在タイ日本国大使館・在チェンマイ日本国総領事館・国際交流基金バンコク日本文化センター
- ④協力：タイ政府人事管理委員会（OCSC）

2) 開催日時・場所

- ①日時：平成30年8月26日（日）9：30～17：00
- ②場所：Bangkok Convention Centre at CentralWorld
999/99 Rama 1 Road、Pathumwan、Bangkok 10330 Thailand

3) 本学参加者

後藤 章（留学生・国際交流センター特命教授）
マリー ケオマノータム（国際学部教授）
沖杉 礼子（学務部留学生・国際交流課留学生係員）

4) 開催概要

- ①資料の展示・配布
 - ・参加機関ブースにおける学校案内、募集要項等の資料展示及び配布
- ②個別相談
 - ・各参加機関の教育内容、入学試験、特色等に関する個別相談の実施
- ③セミナー
 - ・主催者等による日本留学概要及び日本政府奨学金の説明
 - ・日本留学経験者による体験談等の発表

5) 参加機関／来場者数（主催者発表）

- ・参加機関：87 機関
- ・来場者数：2,085 名（前年度 2,728 名）

6) 本学ブース来訪者数

- ・39 名

7) 配付資料

- ・学校案内（英語）
- ・大学情報（入試・授業料・奨学金・授業料免除・住居・生活費等）資料（A4 両面刷 1 枚・英語）
- ・タイ人卒業生等（5 名）からの推薦文集（タイ語）

8) 主な相談内容

- ・自分が勉強したい分野・コース、研究内容の有無
- ・宇都宮の気候、生活費等 ・入試内容 ・奨学金・授業料免除について

9) 所感

- ・ブース来訪者は約 40 名とやや低調であったが、その分、研究分野や受験・入学手続きについて長時間熱心に説明を求める学生が多かった。
- ・本学は、通訳 1 名を加えた 4 名体制で対応した。通訳者は本学卒業生（日本人・国際学部卒）であり、本学に関する基礎知識もあったことから、ブース来訪者と非常にスムーズにコミュニケーションを図ることができた。
- ・学部・研究科ともに、「英語のみで学位取得可能なプログラムはあるか」という質問が多くあった。
- ・学部志望者の多くは既にある程度の日本語能力を身につけていたが、やはり国外からの出願・受験が困難であること（出願が①日本国内からの郵送または②日本在住の代理人からの郵送に限られること、入試のために来日する必要があること等）が出願へのネックとなっていることを痛感した。
- ・多くの学生が奨学金についての情報を求めており、授業料免除に加えて経済面での支援の充実が必要であると実感した。
- ・保護者同伴の学生が多く、また、受験年齢に達していない学生や家族の代理で留学資料を集めに来た等の参加者も複数おり、家族ぐるみで日本への留学意欲の高さがうかがえた。
- ・タイ人卒業生等による本学推薦文集（タイ語）を配布したところ、参加者はみな熱心に目を通していった。今後の留学フェア等でも、現地語で記載した同様の推薦文の配布が有効かと考えられる。
- ・大学院進学希望者については、指導教員候補者を決めて直接コンタクトをとることが重要との助言を行ったが、その際ウェブにおける教員の研究紹介（英語版）を充実させることが必要であると、あらためて認識された。



タイ留学フェア・宇大ブース①



タイ留学フェア・宇大ブース②

（後藤／ケオマノータム／留国課 記）

(2) ベトナム

ベトナムのホーチミンとハノイで開催された日本留学フェアの概要は次の通りである。

1) 主催等

- ①主催：独立行政法人日本学生支援機構
- ②共催：ベトナム元日本留学生協会（JAV）、在ホーチミン日本国総領事館
- ③後援：在ベトナム日本国大使館、国際交流基金ベトナム日本文化交流センター、越日友好協会、JICA ベトナム事務所
- ④協力：ベトナム教育訓練省国際協力教育局、ハノイ国家大学ハノイ外国語大学、ハノイ貿易大学、ホーチミン市人文社会科学大学、ホーチミン市師範大学、ベトナム日本人材開発インスティテュート、在ホーチミン市元日本留学生クラブ（JUACH）

2) 開催日時・場所

①ホーチミン

日時：平成30年10月6日（土）9：00～15：30

場所：REX Hotel、141 Nguyen Hue Boulevard、District 1、Ho Chi Minh City

②ハノイ

日時：平成30年10月7日（日）9：00～15：30

場所：Lotte Hotel Hanoi、54 Lieu Giai Street、Cong Vi ward、BaDinh District、Hanoi

3) 本学参加者

夏秋 知英（副学長／農学部長）

松本 晴朗（学務部留学生・国際交流課留学生係長）

4) 開催概要

①資料の展示・配布

・参加機関ブースにおける学校案内、募集要項等の資料展示及び配布

②個別相談

・各参加機関の教育内容、入学試験、特色等に関する個別相談の実施

③セミナー

・主催者等による日本留学概要及び日本政府奨学金の説明

・日本留学経験者による体験談等の発表

5) 参加機関／来場者数（主催者発表）

①ホーチミン：79 機関／1,719 名（前年度 1,603 名）

②ハノイ：83 機関／1,708 名（前年度 1,664 名）

来場者合計：3,427 名（前年度 3,267 名）

6) 本学ブース来訪者数

①ホーチミン：約 90 名

②ハノイ：約 90 名

7) 配付資料

①大学案内

②入試資料（一般入試及び外国人入試）

③研究者と研究内容一覧

8) 主な相談内容

- ・EJU（日本留学試験）利用時の応募方法、時期等
- ・英語のみで卒業・修了の可否
- ・大学院入試の方法・手続き・時期
- ・研究生で入学し、その後に大学院入試を受験するまでの手順等

9) 所感

- ・特にハノイでは近隣有力日本語学校の生徒が大挙して訪れ、就学に必要な日本語力であった。
- ・全体的に日本語を使える学生が多く、英語で案内することの方がやや少なかった。
- ・日本学生支援機構が用意した通訳だけではなく、宇大に在籍するベトナム人の学生と交換留学生を1名ずつ配置したが、実際に宇都宮で暮らし、宇大を体感した留学生からの説明には説得力があった。

10) その他

- ・ホーチミン、ハノイとも1700名前後の留学希望者らが訪れ、うちそれぞれ90名程度が宇大ブースに来訪した。

- ・先述のとおり、宇大在學生と交換留學生を配置したため、特に生活水準や生活コストについての情報提供については効果的であった。



ベトナム留学フェア・宇大ブース①



ベトナム留学フェア・宇大ブース②

(夏秋・留国課 記)

(3) マレーシア

マレーシアのクアラルンプールで開催された日本留学フェアの概要は次の通りである。

1) 主催等

- ①主催：独立行政法人日本学生支援機構
- ②共催：マレーシア元留日学生協会（JAGAM: Japan Graduates' Association of Malaysia）
- ③後援：在マレーシア日本国大使館、東方政策元留学生同窓会（ALEPS: Alumni Look-East Policy Society）
- ④協力：国際交流基金クアラルンプール日本文化センター

2) 開催日時・場所

- ①日時：平成 30 年 12 月 15 日（土）・16 日（日）12：00～18：00
- ②場所：Kuala Lumpur Convention Centre (KLCC)、
Kuala Lumpur City Centre、Kuala Lumpur 50088、Malaysia

3) 本学参加者

横田 和隆（工学研究科 教授）
上野 量才（学務部留学生・国際交流課 国際交流企画係長）

4) 開催概要

- ①資料の展示・配布
・参加機関ブースにおける学校案内、募集要項等の資料展示及び配布
- ②個別相談
・各参加機関の教育内容、入学試験、特色等に関する個別相談の実施
- ③セミナー
・主催者等による日本留学概要及び日本政府奨学金の説明
・日本留学経験者による体験談等の発表

5) 参加機関・来場者数（主催者発表）

- ・参加機関：35 機関
- ・来場者数：2,397 名
1 日目：1,305 名（前年度 1,492 名）
2 日目：1,092 名（前年度 1,551 名）

6) 本学ブース来訪者数

- ・1日目：48名
- ・2日目：31名

7) 配付資料

- ・2018 大学案内（英語版）
- ・教員専門分野一覧、
- ・授業料案内（チラシ・英語版）、
- ・フリクション蛍光ペン

8) 主な相談内容

- ・自分が勉強したい専門分野、コース、研究内容
- ・奨学金・授業料免除の内容
- ・英語のみの授業により履修・修了可能なコースの有無
- ・入試内容

9) 所感

- ・ほとんどの来場者から、修学期間中に恒常的に支援が受けられる奨学金制度の有無について、質問が出された。本学からは、文科省奨励費、増山奨学金、外部団体奨学金、授業料免除制度などが受けられる旨説明をした。授業料案内のチラシの記載だけでは不十分のように思われるので、どのような種類の奨学金があり、金額、申請方法、年度ごとの更新の有無などについてまとめた資料があるとよかった。
- ・相談分野は工学部、地域デザイン科学部（土木・建築系）、農学部の順で多かった。
- ・本学に無い分野では、経済系（ビジネス、投資系など）、芸術系、文学系などがあつた。
- ・大学院 MC、DC に関する相談も少なからずあつたが、英語版のパンフレットがなく、大学案内（英語版）を使って説明せざるを得なかった。教員専門分野一覧の資料は役に立った。
- ・大学院に関する相談では英語で履修できるコースがあるかは必ず聞かれた。入学試験が日本語で行われるかどうかとも同時に質問された。
- ・大学院入試（特に DC）を日本国外で受けることは可能であるかも問われた。ネットを使った面接などは検討すべきであると思った。
- ・私費外国人留学生募集要項が日本語のみで英語版が無いこと、出願受付が基本的に日本国内を想定していることから、今後は海外向けの取扱いも検討する必要がある。
- ・大学院進学に関する相談も一定数存在することを想定して、パンフレット（特に英語版）を MC、DC ともに用意すべきであろう。学部への留学勧誘のみを前提とすべきではない。
- ・奨学金に関しての詳細資料はあつたほうが良い。
- ・パンフレットなど持ち込むのも限りがあることから、公式 HP に掲載している資料をタブレット PC により活用したが、必ずしも全部が掲載されていないことから、公式 HP または各学部 HP に掲載していく必要があると思われる。
- ・今回の通訳は偶然にも本学の卒業生が割り当たつたが、通常であれば通訳に本学の概要を説明するなど手間が生じる。本学の在學生や卒業生を通訳として活用することも有効であると感じられた。
- ・このようなフェアにおいては、本学のすべての学部・大学院をまんべんなく説明して売り込むという考え方以外に、特定の売り込みたい（強みである）学部・学科、大学院プログラムを絞り込んで、それらに特化した説明ブースとする考え方もありえるかと思った。「お宅の大学で高名な分野／優れた分野は何か」という質問は度々あつた。
- ・大学院進学を促進するためには、大学院募集要項の英語版を整備することと、海外からの出願と受験を、ネットを活用するなどして日本に来なくても可能なように制度整備を行うことが望ましい。



マレーシア留学フェア・宇大ブース①



マレーシア留学フェア・宇大ブース②

(横田・留国課 記)

4.2 外国人学生への進学説明会

日本学生支援機構（JASSO）は、「外国人学生のための進学説明会」を東京および大阪で年に1回ずつ主催している。この説明会は、日本の日本語教育機関等に在籍し、大学等への進学を目指している外国人留学生を主な対象として、進学希望にあった大学等を選択できるよう、全国から大学等が参加して、入試情報はじめ、教育・研究上の特色等に関する最新の確かな情報の提供を行うものである。留学生・国際交流センターでは、この説明会を外国人留学生獲得のための重要施策のひとつと位置づけ、毎年教職員を派遣しているが、本年度は東京会場にのみ派遣した。その実施概要等は以下の通りである。

1) 実施概要

- ①日 時：平成30年7月8日（日）10：00～16：00
- ②場 所：サンシャインシティ 文化会館2F サンシャイン展示ホールD
- ③主 催：独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）（担当部署：留学生事業部留学情報課）
- ④参加機関：184機関（大学・短期大学142、専門学校40、関係機関2）
- ⑤来場者数：1,867名（主催者発表による）

2) 本学ブース

- ①担 当 者：湯本 浩之（留学生・国際交流センター教員）
内田 由佳（入試課）
上野 量才（学務部留学生・国際交流課 国際交流企画係長）
- ②来訪者数：66名（学部進学希望者48名、大学院進学希望者15名、日本語学校教職員3名）
- ③主な相談内容：
 - ・入試内容（募集要項、過去の入試問題、日本留学試験や語学試験の最低必要点数等）
 - ・志望分野の有無、指導教員の研究テーマ、大学院入試や研究生志望の際の教員の連絡方法など
 - ・経済的支援に関する質問（奨学金の有無、平均的な生活費 等）
 - ・入学後の学生生活支援に関する質問（寮、就職支援 等）
 - ・所在地等の基本事項

3) 配布資料等

- ①全員配布：
 - ・宇都宮大学 GUIDEBOOK 2019（日本語版）
 - ・私費外国人留学生選抜要項（抜粋）
 - ・宇都宮大学ノベルティグッズ

②希望者のみ：

- ・各学部パンフレット
- ・教員専門分野一覧
- ・国際交流会館案内
- ・研究生募集概要
- ・栃木県観光案内パンフレット

4) 所感

- ・GUIDEBOOK 2019 を 75 部用意し、終了1時間近く前に配布終了した。(配布終了後には、来場者が来なかったもので、特に問題なし。)
- ・全体的に、国際学部または工学部について質問する留学生が多く、国際学部、工学部の学部パンフレットが足りなくなった。この2学部は他の学部より、多めに用意した方がよい。
- ・自分の希望する分野を調べて、質問をしてくれているが、本学には無い、心理学、経済・経営学などの分野の質問もあった。
- ・日本の語学学校に通っている学生がほとんどで、そこから大学進学を目指している学生一番多く、次いで大学院進学を目指している学生だった。中には、交換留学中に大学院進学、就職の情報を集めている学生、既に日本の大学に入学しているが編入学を希望している学生もいた。
- ・入試の制度を質問してくるとき、大部分は課されている試験の点数がどれくらい必要かというのを必ず聞いてきた。



外国人学生への進学説明会①



外国人学生への進学説明会②

(湯本・留国課 記)

4. 3 国公立大学・大学院フェア in 長沼スクール

東京日本語学校（長沼スクール）において、「大学・大学院進学フェア」に参加し、12名の留学生の進学相談に応じた。

相談学生の主たる進路希望分野は、経済学、言語学、教育学、森林科学、国際学、生物資源学、建築建設学、都市学と幅広く、宇都宮大学の学部及び大学院が提供する学問分野を網羅するものであった。

大学院への進学希望学生に対しては、新大学院構想の説明が難しかった。

また、国際学部への進学を希望するベトナムの学生はモチベーションが高いこと、また長沼スクールの進路担当教諭からの当人への評価が高かったことが印象深い。

1) 実施概要

- ①日 時：平成30年8月22日（水）12:30～14:00
- ②場 所：学校法人 長沼スクール 東京日本語学校 1号館フォーラム・2号館ホール
- ③主 催：(株) キュートジャポン

2) 本学ブース

- ①担当 者：横田 信三（留学生・国際交流センター長）
田崎 正憲（学務部留学生・国際交流課長）
- ②来訪者数：12 名
- ③主な相談内容：
 - ・学べる分野、専門性
 - ・宇都宮大学の地理的背景（位置）、東京からの所要時間及び交通手段
 - ・暮らしやすさ
 - ・奨学金制度の充実度
 - ・学費（授業料免除状況）

（横田・留国課 記）

4. 4 JASSO 東京日本語教育センター（国際学友会日本語学校）進学説明会

日本学生支援機構（JASSO）が東京日本語教育センター（国際学友会日本語学校）で主催する進学説明会に参加するとともに、説明会の開始前に、政府派遣の留学生の現状に関して情報交換を行った。

1) 実施概要

- ①日 時：2018 年 7 月 4 日 15:40～17:30
- ②会 場：日本学生支援機構（JASSO）東京日本語教育センター（国際学友会日本語学校）
- ③出張者：横田 信三（留学生・国際交流センター長）
堀尾 佳以（宇都宮大学大学院工学研究科講師）
松本 晴朗（留学生・国際交流課留学生係長）

2) JASSO との情報交換（15:40～16:10）

- ①面会者（敬称略）：秦靖子（日本学生支援機構東京日本語教育センター高専主任）
- ②内 容
 - 生徒数や国費と私費の割合などについて資料を基に以下のような説明を受けた。
 - ・国費留学生 60 名程度の学生は、文科省から高専に行く学生である。
 - ・私費留学生 80 名の出身国は、アラブ首長国連邦、モンゴル、サウジアラビア、マレーシア、タイなど様々である。
 - ・外国政府派遣等留学生 40 名程度は、台湾、アラブ首長国連邦、サウジアラビアであり、大学進学は世界ランキング上位校を目指すよう政府から言われている国もある。
 - 本日の参加希望者の内訳について
 - ・マレーシア 4 名、中国 3 名、インドネシア 1 名、ベネズエラ 1 名、モンゴル 1 名。
（経済 4 名、情報工学 2 名、機械工学 1 名、文化・メディア・言語 1 名、物理 1 名、建築 1 名）
 - ・大学院志望（UAE1 名 国際学研究科 国際交流研究専攻）
 - 政府派遣生の受験について横田より説明を行った。

3) 進学説明会（16:10～17:10）

- ①参加者数：5 名（インドネシア 1 名、ベネズエラ 1 名、モンゴル 1 名、中国 1 名、マレーシア 1 名）
 - ・ベネズエラの学生は、既に宇都宮大学受験を希望しているとのことで、質問がいくつかあった。
 - ・受験科目について
 - ・情報工学系の学科にいる留学生の人数はどれくらいか？
 - ・入試対策は何をすればよいか

- ・それぞれ答えられる範囲で回答をしているが、後日あらためて正式な回答を、秦先生を通じて行うことを約束した。

②その他

- ・農学系の大学院を希望する学生からの相談については、持ち帰り返答することを約束した。

(横田・留国課 記)

4. 5 国費学部留学生への大学進学説明会

日本の大学の学部進学のための予備教育として、日本語や専門領域科目を履修している国費学部留学生を対象とした大学進学説明会が、東京外国語大学の留学生日本語教育センターと大阪大学の日本語日本文化教育センターで毎年1回ずつ開催されている。本年度は、東京外国語大学で開催された同説明会に教職員を派遣し、本学の概要を紹介したほか、大学別ブースにて個別相談を実施した。

1) 実施概要

- ①日 時：平成30年10月26日（金）13：00～17：00
- ②場 所：東京外国語大学 留学生日本語教育センター
- ③参加機関：22校（文系11校+理系11校）
北海道大学、東北大学、つくば大学、埼玉大学、横浜国立大学、一橋大学等、主に東日本を中心とした国立大学の多くが参加。
- ④参加留学生数：55名（文系26名+理系29名）
主な国籍（韓国7／ベトナム5／ブラジル・インド・モンゴル4）
- ⑤本学参加者：飯塚 明子（留学生・国際交流センター教員）
松本 晴朗（留学生・国際交流課留学生係長）
- ⑥内容：各大学が5分で大学説明を行った後に、教室ごとのブースに分かれて、1時間の相談会を行った。

2) 主な相談内容

- ・本学のブースに9名（文系：韓国、ベトナム、ハンガリー、フィンランド、ロシア、理系：インド、タイ、ベトナム、アルジェリア）が来訪し、入試方法、国際関係、情報工学、教育といった特定の分野を学びたい学生がブースに来て情報交換できたことがよかった。

3) 所感

- ・ブース訪問の時間は1時間でブースの来訪者はあまり多くはないが、日本語のレベルが高く、目的意識が高い学生が多かった。
- ・最大同時来訪者数3名。本学側配置人員として、2名は必要。
- ・気候や地理についての質問多数。次回はブース後方に日本地図を用意し、本学のウェブサイトを見せながら説明できるように、タブレット端末を持参したほうがよい。

(飯塚・留国課 記)

4. 6 交換留学生のための大学院進学説明会

本学への交換留学生の本学各研究科への留学を奨励し、その教育・研究の特色や入試内容・日程等に関する情報を提供する目的で、留学生・国際交流センターでは、平成 23 年度から「交換留学生のための大学院進学説明会」の開催を実施してきている。平成 30 年度の実施概要は以下の通りである。

<実施概要>

- ①日 時：平成 30 年 7 月 18 日（水） 15：30～15：45
- ②場 所：5 号館 C 棟 国際交流学習室
- ③参加者：本学に在籍している交換留学生（特別聴講生）
- ④内 容：・開会挨拶および新大学院の紹介：留学生・国際交流センター副センター長 湯本 浩之
・質疑応答

（湯本 記）

4. 7 宇都宮大学サテライト・オフィス

2017 年度にタイ国カセサート大学キャンパス内に宇都宮大学のサテライト・オフィスが開設された。開設 2 年目となる 2018 年度の活動状況の概要は以下のとおりである。

(1) カセサート大に留学中及び留学予定の宇大学生に対する指導・助言

前年度から交換留学生としてカセサート大学に滞在中（2018 年 5 月半ばまで）の国際学部 3 年生 3 名とたびたび面談し、修学状況について点検・助言を実施した。うち 1 名については、交換留学終了後もインターンシップ等で 8 月初めまでタイに滞在していたので、その間、インターンシップの状況等についても話を聞いた。



スパンブリ県での現地見学

2018 年度の交換留学生として、国際学部 3 年生 2 名が 8 月初めからカセサート大での学生生活を開始した。渡タイ前の 7 月中に、タイに関する全般的情報、及びカセサート大学での留学生活について事前指導を実施するとともに、バンコク到着後、数回にわたり、修学及び生活全般について助言・指導を行った。

また、5 月から 11 月まで特別研究留学生としてカセサート大に研究留学していた連合農学研究科学生についても、頻繁に面談の機会を設けて研究活動の進捗状況について助言するとともに、タイ各地の農業に関する現地見学を企画し同行した。8 月に同君の研究室学生 5 名が訪タイしたので、チャオプラヤデルタでの農業に関する現地見学旅行を手配して同行した。

さらに、2019 年度にカセサート大に交換留学を予定している農学部 1 年生に対して、カセサート大農学部での英語開講科目に関する情報を提供するとともに、日本においてカセサート大留学経験者との情報交流の機会を設定するなど、留学への事前指導を実施した。

(2) タイ国宇大同窓会 UU-AA Thailand 総会の開催

8 月 25 日（土）昼、第 1 回 UU-AA Thailand 総会を開催。Dr. Narongchai Pipattanawong（1997 年連合農学博士修了、最近までカセサート大副学長）とともに総会開催の準備を進めた。当日は、タイ人同窓生 8 名、タイ在住日本人同窓生 6 名、留学中の学生 3 名に加えて、国際学部からマリー・ケオマノー



UU-AA 総会の出席者

タム教授、重田康博教授、留学生国際交流課・沖杉礼子係員、それに後藤の4名、総勢21名の参加があった。

Narongchai氏が初代のUU-AA Thailand代表に選出され、Dr. Achara Pawasut（2005年連合農学博士修了、高地研究開発研究所）が事務局長を担当することとなった。また、実行委員会メンバーとして、同窓生の3つのカテゴリーから、タイ人正規課程修了生：Achara氏、タイ人交換留学生等：Phinporn Siriphokakorn氏、日本人同窓生：大畑美優紀氏（国際学部1年生）をそれぞれ代表として選出することとした。なお、実行委員会にはAdvisory Observerとして後藤が加わることとなった。

(3) タイ在住日本人同窓生による留学生の歓送迎会

8月3日（金）夕刻、在タイ日本人同窓生による交換留学生らの歓送迎会が開かれた。旧交換留学生1名を歓送、新交換留学生2名及び特別研究留学生1名を歓迎するもので、在タイ日本人同窓生6名と歓送迎対象学生4名、それに後藤が出席した。

(4) 日本留学フェアへの参加

8月26日（日）、JASSO主催の日本留学フェアがBangkok Convention Center（Central World）にて開催され、宇都宮大学もこれに参加した。宇大から国際学部マリ～教授と留学生国際交流課の沖杉係員が来タイし、後藤とともに宇大ブースの運営にあたった。また、本間みずほさん（国際学部2年生）にタイ語通訳を依頼し、タイ人学生の対応に助力いただいた。

同フェアでの活動の詳細については、別記報告（31-32頁）に記載されている。

(5) ベトナム・カンボジアにおける元留学生との交流

8月12日～20日にかけて、後藤がベトナム・カンボジアを旅行し、それぞれの国において旧指導学生と会って旧交を温めた。ベトナム・カントー市では、現在カントー大学教員のDr. Ngyuen Dinh Giang Nam（2017年連合農学博士修了）と会い、その後の研究の進捗状況について話し合った。また、彼の同僚教員4名とも会食をともにして、カントー大における国際交流の情勢・方向について情報を得た。

カンボジア・プノンペンにおいては、Dr. Khem Sothea（2006年連合農学博士修了、現メコン河委員会）及びDr. Sam Chhom Sangha（2008年連合農学博士修了、現農業協同組合省）と会合をもち、その後の活躍状況について話を聞いた。また、カンボジア人留学生の名簿を用意して示し、他の留学生の消息に関する把握の状況を確認した。両名とも宇大におけるカンボジア人留学生の草分けであることから、名簿の充実（現在の連絡先記入）を依頼するとともに、2019年度のカンボジア宇大同窓会の設立に向けて準備を進めることとした。

(6) 宇大学生のタイ訪問・旅行に対する支援

2019年2月、宇大の学生サークル「ナムチャイ」の学生12名が、シーサケート県での活動（現地小学生への絵本の贈呈）ののちカセサート大学を訪問し、同大付属小学校の見学をいたいとの要望があったので、これの手配を行い、見学に同行した。

同月末、宇大農学部1年生3名が、マレーシアでの英語研修の後、スリランカでのJICAプロジェクト見学に向かう途上、バンコクに数日滞在した。この間、カセサート大学生との懇談の機会を設けるとともに、バンコク近郊の農業水利施設の見学を企画し同行した。



ナムチャイの学生たち

（後藤 記）

5 日本人学生の海外派遣留学の推進・支援

5.1 海外留学説明会

グローバル人材の育成が叫ばれている今日、留学生・国際交流センターでは、海外に目を向け、交換留学はもちろん、短期の語学留学などに積極的にチャレンジしようとする学生を育成するため、学生に対する様々な説明会を開催した。入学式後の保護者ガイダンスにおいては、留学情報や経費の説明を、新入生ガイダンスにおいては留学情報や各種留学説明会のアナウンスを行った。その後、全学生を対象としたグローバル教育や各種留学プログラムの説明会を年度当初に集中して実施し、学生の海外への意識付けを行った。

(1) 保護者向け留学情報説明会

- ①日 時：平成30年4月4日（水）
- ②場 所：各学部
- ③内 容：1) 宇都宮大学のグローバル教育について
2) 各種留学プログラムについて
3) 経費について
4) 各種留学説明会の日程について

(2) 学部新入生向け留学情報説明会

- ①日 時：平成30年4月9日（月）
- ②場 所：各学部
- ③内 容：1) 宇都宮大学のグローバル教育について
2) 各種留学プログラムについて
3) 経費について
4) 各種留学説明会の日程について

(3) グローバル教育に関する説明会

- ①日 時：平成30年4月10日（火）17:50～19:10
- ②場 所：峰キャンパス 5B11教室
- ③内 容：1) 理事による概要説明
2) Learning+1「グローバル人材プログラム」について
3) 大学コンソーシアムとちぎ「グローバル人材育成プログラム」について
4) 海外英語研修について
5) 短期留学および国際インターンシップについて
6) 経費支援について

(4) 海外留学説明会 I

- ①日 時：平成30年4月13日（金）17:50～18:50
- ②場 所：峰キャンパス 5B11教室
- ③内 容：1) 私費留学について 2) 留学の種類について 3) 交換留学について
4) 協定校私費留学について 5) 短期研修プログラムについて 6) 経費支援について



(5) 海外英語研修説明会

- ①日 時：平成30年4月17日（火）17：50～18：50
- ②場 所：峰キャンパス 5B11 教室
- ③内 容：1) 海外英語研修とは 2) プログラムの内容について

(6) 海外留学説明会Ⅱ

- ①日 時：平成30年4月19日（木）17：50～18：50
- ②場 所：陽東キャンパス10号館 アカデミアホール
- ③内 容：1) 私費留学について
 - 2) 留学の種類について
 - 3) 交換留学について
 - 4) 協定校私費留学について
 - 5) 短期研修プログラムについて
 - 6) 経費支援について

(7) 交換留学説明会及び留学体験報告会

- ①日 時：平成30年6月12日（火）17：50～18：55
- ②場 所：峰キャンパス 5B11 教室
- ③内 容：<第1部>
 - 1) 海外留学全般に関する説明
 - 2) 平成30年度交換留学（派遣）について
 - 3) 交換留学のための奨学金について
 - 4) 単位認定制度について
 - 5) 海外留学と就職について
 <第2部>
 - 6) 留学体験報告会



(8) 交換留学説明会

- ①日 時：平成30年7月3日（火）18：15～18：45
- ②場 所：陽東キャンパス 10号館アカデミアホール
- ③内 容：1) 海外留学全般に関する説明
 - 2) 平成30年度交換留学（派遣）について
 - 3) 交換留学のための奨学金について
 - 4) 単位認定制度について
 - 5) 海外留学と就職について



帰国学生によるブース説明会

(9) 交換留学フェア

- ①日 時：平成30年10月12日（金）17：00～18：30
- ②場 所：UU プラザ
- ③内 容：交換留学からの帰国学生によるブース説明会

(留学生・国際交流課)

5. 2 国際インターンシップ

宇都宮大学の「グローバル人材育成プログラム」の一環として、2014年度から、海外の企業の支社や事業所、NGO や教育機関等で就労体験を行う国際インターンシップを実施している。

7年目となる本年度は、夏期インターンシップに13名、春期インターンシップに11名の合計24名をベトナム、マレーシア、タイ、カンボジア、そしてスリランカの計5ヶ国の企業団体等9組織へインターン生として派遣することができた（下記「(3) 派遣実績」参照）。

留学生・国際交流センターでは、夏期及び春期の休暇中の約2～5週間の実習に先立ち、体験者の報告をはじめ、国際インターンシップの概要やその手続などの説明を目的とした報告・説明会を以下の通り開催した。

また、運営面では留学生・国際交流センター長をグループ長とする「国際インターンシップ・ワーキング・グループ (WG)」(下記「(4)」参照)

が中心となり、応募者の面接や先行のほか、渡航前の各種手続き等への助言指導を行った。今後も引き続き危機管理体制の充実、受入企業等の拡充を図っていくこととしたい。



(1) 平成 29 年度春期「国際インターンシップ」報告会及び平成 30 年夏期説明会

- ①日 時：平成 30 年 4 月 20 日（金）18：00～20：30
- ②場 所：宇都宮大学 UU プラザ 2 階 コミュニティフロア
- ③参加者数：学生 67 名 教職員 10 名 合計：77 名
- ④内 容：（進行）飯塚明子（留学生・国際交流センター）
 - 1) 開会挨拶：横田信三（留学生・国際交流センター長）
 - 2) 平成 29 年度春期参加学生報告（6 組 10 名）
 - ・ Pacific Hotel（カンボジア）：小川紗理奈（国際学部 2 年）・竹中いろは（国際学部 2 年）
 - ・ ケラニア大学（スリランカ）：大根田芽衣（国際学部 2 年）・斎田雛（国際学部 1 年）
 - ・ フェ外国語大学（ベトナム）：伊藤寛恵（国際学部 2 年）・石澤華那（国際 1 年）
 - ・ (株) キヤム（タイ）：井沢賢人（工学部 3 年）
 - ・ NPO 法人アプカス（スリランカ）：平野優麻（地域デザイン科学部 2 年）
 - ・ たんぽぽ保育園（ベトナム）：松田悠希（教育学部 4 年）・島根由衣（国際学部 1 年）
 - 3) 平成 30 年度夏期国際インターンシップ説明：田崎正憲（留学生・国際交流課長）
 - 4) 閉会挨拶：横田和隆（工学研究科教授）
 - 5) 懇親会

(2) 平成 30 年度夏期「国際インターンシップ」報告会及び春期説明会

- ①日 時：平成 30 年 10 月 31 日（水）18：00～20：30
- ②場 所：宇都宮大学 UU プラザ 2 階 コミュニティフロア
- ③参加者数：学生 31 名 教職員 11 名 合計：42 名
- ④内 容：（進行）湯本浩之（留学生・国際交流センター）
 - 1) 開会挨拶：横田信三（留学生・国際交流センター長）
 - 2) 平成 30 年度夏期国際インターンシップ参加学生報告（7 組 13 名）
 - ・ (株) キヤム（タイ）：小田雄紀・高橋遼（工学研究科 1 年）
 - ・ (株) キヤム（タイ）：齋藤陽都・及川良太（工学部 3 年）

- ・(株) Infinity Automation (タイ):加納優希・野中涼 (工学部3年)
 - ・たんぽぽ保育園 (ベトナム): 菲澤怜子 (国際学部3年)
 - ・フエ外国語大学 (ベトナム): 杉沼佳奈重 (国際学部3年)・小林美幸 (国際学部2年)
 - ・Pacific Hotel (カンボジア): 長佐和子 (国際学部3年)・菊池はる佳 (国際学部3年)
 - ・NPO 法人アプカス (スリランカ): 六本木晶瑚 (地域デザイン科学部3年)・北村綾乃 (同学部1年)
- 3) 平成30年度春期国際インターンシップ説明: 栗原謙治 (コーディネーター)
 - 4) 閉会挨拶: 横田和隆 (工学研究科教授)
 - 5) 懇親会



報告会・説明会 (10/31) の様子

(3) 派遣実績

①平成30年度 夏期国際インターンシップ

	氏名	学部・研究科	学年	実習先企業	実習期間	実習国
1	杉沼 佳奈重	国際学部	3	フエ外国語大学	8/27～9/21	ベトナム
2	小林 美幸	国際学部	2			
3	菲澤 怜子	国際学部	3	たんぽぽ保育園	8/28～9/20	ベトナム
4	長 佐和子	国際学部	3	Pacific Hotel & Spa Siem Reap	8/20～9/14	カンボジア
5	菊池 はる佳	国際学部	3			
6	加納 優希	工学部	3	IAT	8/20～9/21	タイ
7	野中 涼	工学部	3			
8	高橋 遼	工学研究科	1	株式会社キャム	8/6～8/24	タイ
9	小田 雄紀	工学研究科	1			
10	齋藤 陽都	工学部	3	株式会社キャム	8/27～9/15	タイ
11	及川 良太	工学部	3			
12	六本木 晶瑚	地域デザイン科学部	3	NPO 法人アプカス	8/20～9/14	スリランカ
13	北村 綾乃	地域デザイン科学部	1	NPO 法人アプカス	8/20～9/14	スリランカ

②平成30年度 春期国際インターンシップ

	氏名	学部・研究科	学年	実習先企業	実習期間	実習国
1	永吉 いずみ	国際学部	2	フエ外国語大学	2/25～3/15	ベトナム
2	中村 菜央	国際学部	2	たんぽぽ保育園	3/2～3/14	ベトナム
3	堀越 桃奈	国際学部	2			
4	野村 佐和子	農学部	2	INSAR Tours & Travel Sdn.Bhd	2/25～3/8	マレーシア
5	山崎 香菜	国際学部	2		3/11～3/29	
6	刈屋 陽菜	国際学部	2	UNIMAS(日本語)	2/25～3/22	マレーシア
7	中平 恵	農学部	2		2/11～3/1	
8	坂本 成美	国際学部	2	UNIMAS(国際課)	3/4～3/29	マレーシア
9	遠藤 里桜	地域デザイン科学部	2	NPO 法人アプカス	2/18～3/15	スリランカ
10	村上 遥佳	地域デザイン科学部	2			
11	荒井 寿美	国際学部	2	ケラニア大学	3/18～3/29	スリランカ

(4) 国際インターンシップ・ワーキング・グループ (WG) の構成 (平成 30 年度)

所 属	氏 名	所属部局	職 名
グループ長	横田 信三	留学生・国際交流センター	センター長 (兼農学部教授)
グループ員	清木 隆文	地域デザイン科学部	准教授
	重田 康博	国際学部	教授
	吉田 一彦	国際学部	教授
	横田 和隆	工学部	教授
	福村 一成	農学部	准教授
	湯本 浩之	留学生・国際交流センター	教授
	飯塚 明子	留学生・国際交流センター	助教
	松井 貞	留学生・国際交流センター	コーディネーター (12月まで)
	栗原 謙治	留学生・国際交流センター	コーディネーター (1月から)
	田崎 正憲	留学生・国際交流課	課長
事務局	上野 量才	留学生・国際交流課	係長
	長岡 陽子	留学生・国際交流課	事務補佐員

(湯本・留国課 記)

5.3 海外渡航前危機管理オリエンテーション

留学生・国際交流センターでは、海外留学の推進を行うと同時に、複雑化する国際情勢や自然災害などから生じる危機から学生を守るため、学生一人一人の危機に対する意識の涵養を図るため、「海外渡航前危機管理オリエンテーション」を開催している。これは、交換留学をはじめ、海外語学研修や国際インターンシップで海外に留学する学生に参加を義務付けるとともに、夏休みなど長期休業期間を利用して海外に渡航する学生も対象としたものである。

今年度は、夏期と春期の国際インターンシップの実施に合わせ、7月と1月の計2回実施した。なお、1月に実施したオリエンテーションは、初めての試みとして、日本貿易振興機構栃木貿易情報センター（ジェットロ栃木）の協力を得て、外務省領事局海外邦人安全課より担当官を講師に招いての実施となった。

(1) 平成 30 年度第 1 回海外渡航前危機管理オリエンテーション

①日 時：平成 30 年 7 月 19 日 (木) 17:50～19:20

②場 所：峰キャンパス 5B11 教室

③内 容：1) 開会挨拶：

横田 信三 (留学生・国際交流センター長)

2) 外務省ビデオ試聴 1 「なぜ君がねられるのか」

3) 危機管理に関する講話：湯本 浩之 (留学生・国際交流センター)

4) 外務省ビデオ試聴 2 「海外へ渡航するあなたへ」

5) 外務省「たびレジ」登録推奨

6) 海外渡航・海外滞在時の諸注意と各種手続きについて

沖杉 礼子 (留学生・国際交流課)



(2) 平成 30 年度第 2 回海外渡航前危機管理オリエンテーション

①日 時：平成 31 年 1 月 17 日（木）17：50～19：10

②場 所：峰キャンパス 5B11 教室

③内 容（敬称略）：

- 1) 開会挨拶：横田 信三（留学生・国際交流センター長）
- 2) 挨拶：松永 宗徳（日本貿易振興機構（JETRO）栃木貿易情報センター所長）
- 3) 危機管理に関する講話：楠田 麻衣（外務省領事局海外邦人安全課外務事務官）
- 4) 留学生・国際交流課からの諸手続き説明：沖杉 礼子（留学生・国際交流課）

（留学生・国際交流課）

5.4 海外英語研修

(1) マレーシア・サラワク大学

宇都宮大学が大学間交流協定を結んでいる（2017 年度締結）マレーシアのサラワク大学の協力を得て、昨年度から新たな英語研修プログラムを実施している。本研修は、授業による英語能力の向上だけでなく、多民族国家であるマレーシアの自然環境豊かなボルネオ島サラワク州において、英語運用能力の高いサラワク大学生バディと共に過ごす、寮生活・課外活動を通じて、多文化共生や生物多様性などのテーマ理解を深めることも目的としたプログラムとなっている。



授業の様子①

①実施概要

1) 研修先：国立マレーシア・サラワク大学（UNIMAS）

2) 参加学生数：学部生 30 名

<内訳>

学部：国際 10 名／教育 10 名／工学 1 名／農学 9 名

学年：1 年生 16 名／2 年生 10 名／3 年生 4 名

3) 引率教職員：大久保達弘（農学部教員）

出羽 尚（国際学部教員）

天沼 実・山野 有紀（教育学部教員）

山本由紀恵（留学生・国際交流課）

福山 晴佳（企画広報課・職員英語研修）

4) プログラム実施スケジュール

募集説明会 10 月 23 日（火）

募集期間 10 月 23 日（火）～11 月 8 日（木）

参加者選考決定 11 月下旬

第 1 回事前研修 1 月 11 日（金）

海外渡航前危機管理オリエンテーション 1 月 17 日（木）

第 2 回事前研修 2 月 6 日（水）

研修期間 2 月 7 日（木）～2 月 24 日（日）

研修報告 4 月 5 日（金）



授業の様子②



サラワク大学工学部訪問

②研修概要

1) 英語語研修：

サラワク大学言語コミュニケーション学部の英語専門の教員複数名（ネイティブ教員含む）による、アクティブラーニングを取り入れた30時間の集中英語研修（平日9:30～15:30）を習熟度別に2クラス設定し、今回は、SDGsをテーマにして、事前研修で講習を行った他、研修授業にもSDGsを意識した

内容を取り入れ、グループに分かれて行うプレゼンテーションも、SDGsをテーマに発表を行った。

2) Faculty Based Activity（専門分野別活動）：

参加学生の専門分野に併せて、4学部（言語コミュニケーション学部・工学部・社会科学学部・資源科学技術学部）に分かれての学部の英語による授業や施設見学を行った。

3) 日本文化紹介：

現地の小学校訪問（私立 Lodge School）、サラワク大学の日本語授業訪問、クロージングセレモニーにおいて、書道・茶道・浴衣・折紙・合気道・ソーラン節等の日本文化を紹介した。

4) 課外活動：

サラワク文化村（1泊）、マタン ワイルドライフセンター（オランウータンなど野生動物保護施設）、ブルックギャラリー（歴史博物館）、クチン市内、クアラルンプール市内観光等を行った。

5) バディプログラム：研修期間中、サラワク大学の学生がバディとして約20名参加し、上記の授業・課外活動・寮生活をサポート



現地の小学校を訪問



課外活動①



課外活動②



帰国日・空港でのお見送り

（留学生・国際交流課）

(2) 海外英語研修 (オーストラリア サザンクロス大学)

オーストラリアのニューサウスウェールズ州にあるサザンクロス大学が提供する英語研修プログラムを実施している。本研修では、英語の運用能力向上を主目的とした集中授業が中心となるが、それだけではなく、オーストラリアの自然や文化に触れられるような課外活動も含まれ、宇都宮では体験できない貴重な機会を得ることができる。加えて、参加学生は滞在期間を通じてオーストラリアの家庭にホームステイをすることで、現地の生活に触れることもできるプログラムとなっている。

①実施概要

- 1) 研修先：オーストラリア リズモー市
サザンクロス大学 (SCU)
- 2) 参加学生数：学部生 26 名
＜内訳＞
地デ 3 名／国際 13 名／教育 4 名／工学 3 名／農学 2 名
国際学研究科 1 名
- 3) 教職員：アンドリュー ライマン (国際学部教員)
出羽 尚 (国際学部教員)
蒔苗 千佳 (修学支援課)
- 4) プログラム実施スケジュール
募集説明会 5月29日 (火)
募集期間 5月30日～6月8日
参加者選考決定 6月下旬
第1回事前研修 7月23日 (月)
海外渡航前危機管理オリエンテーション 7月19日
第2回事前研修 8月24日 (金)
研修期間 8月26日 (日)～9月10日 (月)
研修報告 10月29日 (月)

②研修概要

- 1) 英語研修：
サザンクロス大学の英語教員による、アクティブラーニングを取り入れた2週間の集中英語研修 (平日 9:00～15:00)
- 2) ホームステイ：
参加学生は大学周辺の現地家庭にホームステイをし、オーストラリアの生活を体験した。
- 3) 課外活動：
バイロンベイ・バリナ海事博物館、サーフィン等活動、キャンプ (1泊)、カルチャーショー鑑賞、ゴールドコースト観光 (1泊)。



授業の様子①



授業の様子②



課外活動でのランチタイム



課外活動：オーストラリア固有の動物に触れ（左）、サーフィン体験（右）



修了書授与

5.5 海外渡航危機管理サービス

グローバル人材育成の観点から、積極的に学生の海外留学を推進する一方、海外ではテロ、事件・事故、災害など各種のリスクが存在する。このことから、留学生・国際交流センターでは、これらのリスクに対応するため海外渡航危機管理サービスを導入した。このことにより、現地にいる学生へ危険情報の連絡や災害などが発生した際の安否確認ができるシステムを活用し、現地にて学生が困ったことが発生した時には24時間電話相談ができるサービスを受けられる体制を導入し、安心して海外留学ができる体制を構築している。

(留学生・国際交流課)



6 各種協議会等への参加

本年度は以下のような各種協議会に教職員を派遣し、国際交流や留学生支援などに関する経験交流や情報収集に努めた。

6.1 平成30年度全国国立大学法人留学生センター長及び留学生課長等合同会議

(1) 実施概要

- ①日 時：平成30年11月9日（金）
- ②場 所：ホテルメトロポリタン長野
- ③主催大学：信州大学
- ④本学参加者：横田 信三（留学生・国際交流センター長） 田崎 正憲（留学生・国際交流課長）

(2) プログラム

- ①関係機関事業説明
 - 1) 文部科学省事業説明
 - 2) 独立行政法人日本学生支援機構事業説明
 - 3) 公益財団法人日本国際教育支援協会事業説明
- ②協議事項 北海道大学
「海外派遣における学生への危機予防・対応教育をどのように行っているのか（部局別か全学的か。全学的に研修等を行なっている場合は、その課題や工夫）」
- ③議事
 - 1) 次期当番大学について
 - 2) 連絡・その他

6.2 平成30年度国立大学法人等国際企画担当責任者連絡協議会

(1) 実施概要

- ①日 時：平成30年11月20日（火）
- ②場 所：横浜ベイホテル東急
- ③主催大学：横浜国立大学
- ④テーマ：「21世紀型海外派遣事業へ向けて」
- ⑤本学参加者：横田 信三（留学生・国際交流センター長） 田崎 正憲（留学生・国際交流課長）

(2) プログラム

【第I部】

- ①講演「留学生政策をめぐる現状と取組」
齋藤 潔（文部科学省高等教育局 学生・留学生課学生交流室長）
- ②「中国の留学生派遣と受け入れ政策並びに留学生交流の展望について」
胡 志平（中華人民共和国中日本国大使館教育使処公使参事官）
- ③「学生の海外経験と大学の役割～産業界の視点から～
日立ヤングリーダーズ・イニシアティブ（HYLI）の事例紹介」

荒木 由季子 (株)日立製作所 理事・サステナビリティ推進本部長)

【第Ⅱ部】

①取り組みの紹介とパネルディスカッション

1) 取り組み例1: 千葉大学「多くの学生に海外留学を～千葉大学の取組～」

織田 雄一 (千葉大学 国際未来教育基幹教授)

2) 取り組み例2: 横浜国立大学「学生の海外派遣について」

藤掛 洋子 (横浜国立大学 学長特任補佐 (国際連携 (中南米) 担当))

②パネルディスカッション

司 会: 中村 文彦 (横浜国立大学 理事 (国際・地域・広報担当) 副学長)

パネリスト: 齋藤 潔 (文部科学省高等教育局 学生・留学生課学生交流室長)

胡 志平 (中華人民共和国中日本国大使館教育使処公使参事官)

荒木由季子 (株)日立製作所 理事 サステナビリティ推進本部長)

織田 雄一 (千葉大学 国際未来教育基幹教授)

藤掛 洋子 (横浜国立大学 学長特任補佐 (国際連携 (中南米) 担当))

(留学生・国際交流課)

6. 3 平成 30 年度第 1 回国立大学留学生指導研究協議会

(1) 実施概要

①日 時: 平成 30 年 6 月 26 日 (金) 13:30 ~ 16:45

②場 所: 東京都文京区 東京大学本郷キャンパス 薬学系総合研究棟講堂

③主催大学: 東京大学グローバルキャンパス推進本部 国際化教育支援室

④本学参加者: 堀尾 佳以 (工学研究科機械知能工学専攻講師)

(2) プログラム (敬称略)

総合司会: 原田麻里子 (東京大学グローバルキャンパス推進本部講師)

①挨拶: 矢口 祐人 (東京大学グローバルキャンパス推進本部 国際化教育支援室長)

②第一部: 「留学生受け入れ政策をめぐる現状と今後の課題」

丸岡 充 (文部科学省 高等教育局学生・留学生課課長補佐 (命) 室長補佐)

③第二部: 「国際的なキャンパスコミュニティの実現に向けた取り組み -FD・SD の視点から」

司会・企画主旨説明 大西 晶子 (東京大学グローバルキャンパス推進本部准教授)

1) 基調講演「指導教員等が必要とする留学生受け入れに関する知識・情報～共有化に向けた工夫と課題」

近田 政博 (神戸大学 大学教育推進機構教授)

2) 各大学の留学生支援関係の FD・SD の現状と今後に向けての課題共有

愛媛大学における取組事例紹介 VERGIN RUTH (愛媛大学 国際連携企画室教授)

大阪大学における取組事例紹介 有川 友子 (大阪大学 国際教育交流センター教授)

④質疑・パネルディスカッション

(堀尾 記)



6. 4 平成30年度第2回国立大学留学生指導研究協議会 兼 第50回大阪大学留学生教育・支援協議会

(1) 実施概要

- ①日 時：平成31年2月1日（金）13：30～19：00
- ②場 所：大阪大学吹田キャンパス 银杏会館3階阪急電鉄・三和銀行ホール
- ③主催大学：大阪大学
- ④テ ー マ：「留学生生活の多面的な支援」
- ⑤本学参加者：堀尾 佳以（工学研究科機械知能工学専攻講師）

(2) プログラム

総合司会：有川 友子（大阪大学国際教育交流センター長）

挨拶：河原 源太（大阪大学理事・副学長）

コーディネーター：田中 京子（名古屋大学国際機構国際教育交流センター教授）

①留学生受入れに関する施策

1) 「学生の双方向交流の推進に関する予算案と政策について」

丸岡 充（文部科学省高等教育局学生・留学生課留学生交流室室長補佐）

2) 質疑応答

②事例紹介

1) 「多様化する留学生層に対応した東京大学における就職支援活動の取り組みについて －学生・企業双方のニーズを考えつつ－」

原田 麻里子（東京大学グローバルキャンパス推進本部講師）

2) 「愛媛の大学と企業が育てる高度外国人材育成プログラム」

泉谷 道子（愛媛大学国際連携推進機構留学生就職促進プログラム推進室副室長）

③分科会「留学生生活の多面的な支援」

A：「就職支援」

ファシリテーター：中本 進一（埼玉大学国際本部教授）

藤田 糸子（京都大学大学院人間・環境学研究科講師）

B：「家族支援」

ファシリテーター：岸田 由美（金沢大学理工研究域准教授）

堀尾 佳以（宇都宮大学大学院工学研究科講師）

C：「交流支援」

ファシリテーター：渡部 留美（東北大学高度教養教育・学生支援機構グローバルラーニングセンター准教授）

ロン リム（香川大学留学生センター教授）

④各分科会からの報告と全体討論

⑤閉会の挨拶：有川 友子（大阪大学国際教育交流センター長）

（堀尾 記）

6. 5 平成 30 度日本語・日本文化研修留学生問題に関する検討会

(1) 実施概要

- ①日 時：平成 30 年 11 月 16 日（金）13：30～17：10
- ②場 所：大阪大学豊中キャンパス『理学研究科 J 棟（南部陽一郎ホール）』
- ③主催大学：大阪大学 日本語日本文化教育センター
- ④本学参加者：飯塚 明子（留学生・国際交流センター教員）

(2) プログラム

- ①留学生政策をめぐる現状と取組 日本語・日本文化研修留学生について
文部科学省高等教育局学生・留学生課留学生交流室 専門官 小栗 孝明
- ②質疑応答
- ③拠点事業紹介
- ④報告 1：大学の特性を生かした日研生プログラム 琉球大学、京都教育大学、奈良教育大学
- ⑤質疑応答
- ⑥報告 2：日研生教育の対応と進路 大阪教育大学、群馬大学、大東文化大学
- ⑦質疑応答

（飯塚 記）

Ⅲ 教員個人活動実績



活動実績：横田 信三

1. 研究課題

	課 題	小 課 題
1	樹木の病原菌に対する防御機構の解明	カバノアナタ菌に感染したシラカンバ幼植物体に生成する特異的タンパク質のプロテオーム解析
		カバノアナタ菌に感染したシラカンバ幼植物体に生成する特異的タンパク質及びフェノール性化合物のMALDI/TOF/MS イメージング解析
		カバノアナタ菌の全ゲノム解読
2	木質系バイオマスの有効利用に関する研究	シイタケが生産する菌体外セルラーゼの精製に関する研究
		シイタケが生産する菌体外タンパク質のプロテオーム解析
		シイタケ菌床栽培中に発生する菌床代謝水中のタンパク質の解析

2. 研究活動および成果

2-1. 発表論文・著書

	著者名	論文名・著書名	掲載雑誌等, または出版社	巻・号, 頁	年月
1	Ishiguri F., Tumenjargal B., Baasan B., Jigjiv A., Pertiwi Y.A.B., Aiso-Sanada H., Takashima Y., Iki T., Ohshima J., Iizuka K., <u>Yokota S.</u>	Wood properties of <i>Larix sibirica</i> naturally grown in Tosontsengel, Mongolia	International Wood Products Journal	9, 127-133	2018
2	田邊 純、石栗 太、高島有哉、有賀仁紀、三瓶広幸、大島潤一、飯塚和也、横田信三	青森県下北半島で生育したヒノキアスナロの木材性質	木材工業	73, 390-395	2018
3	Tanabe J., Ishiguri F., Tamura A., Takashima Y., Ohshima J., Iizuka K., <u>Yokota S.</u>	Within-tree radial and among-family variations in wood density, microfibril angle, and mechanical properties in <i>Picea glehnii</i>	Silva Fennica	52, article id 9914	2018
4	Tumenjargal B., Ishiguri F., Aiso-Sanada H., Takahashi Y., Baasan B., Chultem G., Ohshima J., <u>Yokota S.</u>	Geographic variations of wood properties of <i>Larix sibirica</i> naturally grown in Mongolia	Silva Fennica	52, article id 10002	2018
5	Pertiwi Y.A.B., Aiso H., Ishiguri F., Marsoem S.N., <u>Yokota S.</u>	Radial variation of wood properties in <i>Neolamarckia cadamba</i> trees from an East Java community forest	Southern Forests: a Journal of Forest Science	80, 351-359	2018

2-2. 学会発表

	著者名	発表題名	学会名等	要旨集、頁	年月
1	千野 怜、野寺開斗、石栗 太、大島潤一、横田信三	癌腫病菌カバノアナタケ IO-U1 株を接種したシラカンバ幼植物体 No.8 の菌感染部位に生成する特異的タンパク質のプロテオーム解析	第 36 回日本植物細胞分子生物学会 (金沢) 大会	第 36 回日本植物細胞分子生物学会 (金沢) 大会講演要旨集, p158	2018.8
2	相蘇春菜、黒田克史、矢崎健一、児嶋美穂、安部 久、工藤佳世、石栗 太、横田信三	樹幹への植物ホルモン塗布と傾斜刺激がセンリョウ二次木部の樹体支持と通水の機能に与える影響	第 69 回日本木材学会大会	第 69 回日本木材学会大会 研究発表要旨集, A15-P-10	2019.3
3	Agnestisia R., Chino R., Nodera K., Ishiguri F., <u>Yokota S.</u>	Two-dimensional electrophoresis analysis of infection-specific proteins produced in the callus of Japanese birch plantlet No.8 infected with a canker-rot fungus <i>Inonotus obliquus</i> strain IO-U1 (NBRC 113406)	第 69 回日本木材学会大会	第 69 回日本木材学会大会 研究発表要旨集, A15-P-35	2019.3

4	根津郁実、石栗 太、大島潤一、横田信三、相蘇 (眞田) 春菜、Sapit D.	タイに植栽にされた <i>Eucalyptus camaldulensis</i> の成長形質および木材性質の家系間変異	第 69 回日本木材学会大会	第 69 回日本木材学会大会 研究発表要旨集, B14-04-0900	2019.3
5	Togtokhbayar E., Ishiguri F., Takahashi Y., Takashima T., Nezu I., Kobayashi Y., Yokota S., Baasan B., Chultem G.	Growth characteristics and wood properties of <i>Betula platyphylla</i> trees naturally grown in Mongolia	第 69 回日本木材学会大会	第 69 回日本木材学会大会 研究発表要旨集, B14-04-0915	2019.3
6	Frismani A., Ishiguri F., Yokota S., Istikowati W.T., Pertiwi Y.A.B., Aiso-Sanada H.	Anatomical characteristics of bangkal (<i>Nauclea officinalis</i> Pierre ex Pit) naturally grown in secondary forest in South Kalimantan, Indonesia	第 69 回日本木材学会大会	第 69 回日本木材学会大会 研究発表要旨集, B14-04-0945	2019.3
7	Sarkhad M., Ishiguri F., Takahashi Y., Yokota S., Baasan B., Chultem G.	Wood properties of common four softwoods in Mongolia	第 69 回日本木材学会大会	第 69 回日本木材学会大会 研究発表要旨集, B15-P-05	2019.3
8	Tumenjargal B., Ishiguri F., Takahashi Y., Yokota S., Aiso-Sanada H., Baasan B., Chultem G.	Geographical variations of lumber quality in <i>Larix sibirica</i> trees naturally grown in Mongolia	第 69 回日本木材学会大会	第 69 回日本木材学会大会 研究発表要旨集, B15-P-06	2019.3
9	高橋優介、石栗 太、大島潤一、高島有哉、平岡裕一郎、井城泰一、宮下久哉、横田信三	群馬県および長野県に植栽されたカラマツ人工交配家系の気乾密度および曲げ物性の変異	第 69 回日本木材学会大会	第 69 回日本木材学会大会 研究発表要旨集, B15-P-07	2019.3
10	大島潤一、川崎聖也、野寺開斗、飯塚和也、石栗 太、横田信三	ニホンツキノワグマによる剥皮被害を受けたスギ樹幹の材質劣化	第 69 回日本木材学会大会	第 69 回日本木材学会大会 研究発表要旨集, B15-P-09	2019.3
11	佐藤 希、金野尚武、羽生直人、石栗 太、大島潤一、横田信三	ペクチンを添加した液体培地で震盪培養したシイタケにおける菌体外糖質分解酵素活性の経時変化	第 69 回日本木材学会大会	第 69 回日本木材学会大会 研究発表要旨集, O15-P-05	2019.3
12	飯塚和也、大島潤一、石栗 太、横田信三	スギ樹幹木部における ^{137}Cs 濃度の分布パターンの経年変化とサイズ依存性	第 69 回日本木材学会大会	第 69 回日本木材学会大会 研究発表要旨集, Q15-P-20	2019.3

3. 教育活動

3-1. 講義

	講義・授業名	前期 / 後期	種別・対象学年	単位数	備考
1	ノーベル化学賞周辺の化学	後期	基盤教育	2	
2	森林科学論Ⅱ	後期	農学部・1年生	2	分担 (2名で担当)
3	国際森林科学論	前期	農学部・2年生	2	分担 (6名で担当)
4	林産学実験	後期	農学部・2年生	1	分担 (2名で担当)
5	森林基礎化学	前期	農学部・1年生	2	
6	森林化学	前期	農学部・2年生	2	
7	森林資源利用学	後期	農学部・3年生	2	
8	森林化学実験	前期	農学部・3年生	1	
9	森林資源利用学実習	後期	農学部・3年生	1	分担 (2名で担当)
10	特別講義Ⅰ	後期	農学部・3年生	1	分担 (2名で担当)
11	特別講義Ⅱ	前期	農学部・4年生	1	分担 (2名で担当)
12	卒業論文	通年	農学部・4年生	6	
13	森林資源利用学特論	後期	農学研究科	2	
14	樹木生化学特論	前期	農学研究科	2	
15	林産化学特論	後期	農学研究科	2	

16	森林科学特別実験・演習Ⅰ	通年	農学研究科	2	
17	森林科学特別実験・演習Ⅱ	通年	農学研究科	2	
18	森林科学特別研究Ⅰ	通年	農学研究科	5	
19	森林科学特別研究Ⅱ	通年	農学研究科	5	
20	森林バイオマス学特論	後期	連合農学研究科	0.5	分担（4名で担当）
21	森林資源物質科学合同セミナー	前期	連合農学研究科	0.5	分担（10名で担当）
22	森林資源物質科学特別演習	通年	連合農学研究科	2	
23	森林資源物質科学特別研究	通年	連合農学研究科	6	

3-2. 大学院生論文指導

		学年	氏名	論文題目
修士課程	主指導	M1	野寺開斗	Proteome analysis of the infection-specific proteins produced in the leaf and petiole of Japanese birch plantlet No.8 infected with <i>Inonotus obliquus</i> strain IO-U1
	主指導	M2	千野 怜	Proteome analysis of the infection-specific proteins produced in the roots of Japanese birch plantlet No.8 infected with <i>Inonotus obliquus</i> strain IO-U1
	主指導	M2	Norovvanjil Banzragch	Wood properties in 10 clone Japanese larch trees planted in Tohoku area
博士課程	主指導	D1	Erdeneochir Togtokhbayar	Growth characteristics and wood properties of <i>Betula platyphylla</i> trees naturally grown in Mongolia
	主指導	D1	Murzabyek Sarkhad	Wood properties of common four softwoods in Mongolia
	主指導	D2	Bayasaa Tumenjargal	Wood properties of <i>Larix sibirica</i> trees naturally grown in Mongolia
	主指導	D1	Retno Agnestisia	Proteome analysis of the infection-specific proteins produced in the callus and suspension-cultured cells of Japanese birch plantlet No.8 infected with <i>Inonotus obliquus</i> strain IO-U1

3-3. 卒業論文指導

	氏名	卒業論文題目
1	石田江里子	添加物を加えた樹皮タンニン含有塗料の抗酸化能の解析
2	佐藤 希	ペクチンを添加した液体培地で震盪培養したシイタケにおける菌体外糖質分解酵素活性の経時変化
3	高嶋竜平	日本産広葉樹4種における傾斜部位の物理的性質と化学成分量との関係

4. 研究費

4-1. 取得研究費

種別	資金源・種別等	研究課題	代表者	金額（千円）	期間
学外助成	受託研究費	木質系炭塗料を用いた健康向上資材等の開発	横田信三	500	H30.4～H31.3
学外助成	科学研究費補助金・基盤研究(C)（一般）	癌腫病菌に感染したシラカンバ植物体に生成するタンパク質の3次元画像網羅解析	横田信三	4,940	H29.4～H32.3
学外助成	科学研究費補助金・基盤研究(B)（一般） 分担	微生物群集機能に基づく樹木の材腐朽進展	山田利博	400	H30.4～H31.3

5. 学内活動

種 別	委員会・役職等	任 期	備 考
全学組織	留学生・国際交流センター長	H28.4 ~ H32.3	
全学組織	学術国際委員会・副委員長	H28.4 ~ H32.3	
全学組織	留学生専門委員会・委員長	H28.4 ~ H32.3	
全学組織	SDGs WG 委員	H29.4 ~ H31.3	
農学部	学術国際委員長	H29.4 ~ H31.3	
農学部	農学部企画会議委員	H30.4 ~ H31.3	

6. 学外活動

6-1. 学会活動

学 会 名	役 職 名	備 考
日本木材学会	会員、木材教育委員会委員	
日本農芸化学会	会員	
日本植物細胞分子生物学会	会員	
日本植物生理学会	会員	
日本質量分析学会	会員	
植物化学研究会	会員	
日本植物病理学会	会員	
日本核磁気共鳴学会	会員	
アメリカ植物病理学会	会員	
アメリカ質量分析学会	会員	
アメリカ植物生物学者学会	会員	
アメリカ化学会	会員	

6-2. 委嘱委員

組 織	委 員 会 名	備 考
(非公開)	(非公開)	H30.4 ~ H31.3
(非公開)	(非公開)	H30.4 ~ H31.3
一般社団法人森林・自然環境技術者教育会	運営委員会、分野審査委員会	
公益財団法人農学会	技術者教育推進委員会	

活動実績：湯本 浩之

1. 研究課題

	課 題	小 課 題
1	開発教育・グローバル教育・持続可能な開発のための教育(ESD)・シティズンシップ教育等の歴史研究や政策研究	欧州の新教育運動や英国のワールドスタディーズに関する研究
		英国や欧州連合における開発教育・グローバル教育・シティズンシップ教育などの政策に関する研究
2	参加型学習と参加型開発との比較研究	ワークショップやファシリテーションの理論や実践に関する研究
		P R A (参加型農村調査)やP L A (参加型学習行動)に関する研究

2. 研究活動および成果

2-1. 著書

	著者名	著 書 名	出 版 社	巻・号、頁	年月
1	湯本浩之 (分担執筆)	「共に生きる」ことのできる社会づくりに向けた教育：持続可能な開発のための教育(ESD)と多文化共生	宇都宮大学国際学部編『多文化共生をどう捉えるか』 下野新聞新書12、下野新聞社。	44-48頁、総183頁。	2018年 10月

2-2. 書誌原稿

	著者名	原 稿 名	掲載誌・発行者	巻・号、頁	年月
1	湯本浩之	ポストSDGs：西暦2030年後の世界は持続可能か	『生活協同組合研究』生協総合研究所。	518号、2-3頁。	2019年 3月

3. 教育活動

3-1. 講義・演習

	講義・授業名	学期	種別・対象学年	単位数	備 考
1	ワークショップで学ぶ「ボランティアと市民活動」	前期	基盤教育	2	総合系科目
2	ワークショップで学ぶ「変わりゆく現代社会と私たち」	後期	基盤教育	2	総合系科目
3	グローバル実践力基礎演習Ⅰ	前期	国際学部・2年	2	第3回授業を担当。
4	グローバルイシュー研究演習Ⅰ	前期	国際学部・2年	2	他2名の教員と担当
5	グローバルイシュー研究演習Ⅱ	後期	国際学部・2年	2	他2名の教員と担当
6	グローバル教育論	前期	国際学部・2年	2	
7	国際キャリア教育	夏期集中	国際学部・1～4年	2	合宿セミナー(8月)
8	国際キャリア実習	通年集中	国際学部・1～4年	2	他2名の教員と担当
9	国際協力研究演習F (グローバル教育論演習)	前期	国際学部・3年	2	
10	卒業研究準備演習	後期	国際学部・3年	2	
11	卒業研究Ⅰ	前期	国際学部・4年	4	
12	卒業研究Ⅱ	後期	国際学部・4年	4	
13	国際インターンシップ	通年集中	全学科目1～4年	2	同WGで運営
14	Globalization and Society	春期集中	全学科目1～4年	2	Learning+1
15	グローバル教育研究	後期	国際学研究科	4	博士前期課程
16	国際学臨地研究	通年	国際学研究科	8	博士前期課程
17	国際交流特別研究	通年	国際学研究科	6	博士前期課程

18	国際学基礎演習	前期	国際学研究科	2	博士後期課程。コーディネータを担当
19	国際教育政策研究	後期	国際学研究科	2	博士後期課程
20	日研生特別研究Ⅰ	後期	日本語・日本文化研修留学生	2	留学生・国際交流センター開講科目
21	日研生特別研究Ⅱ	前期	日本語・日本文化研修留学生	2	留学生・国際交流センター開講科目
21	日研生特別研究Ⅱ	前期	日本語・日本文化研修留学生	2	留学生・国際交流センター開講科目

3-2. とちぎグローバル人材育成プログラム共通科目

	講義・授業名	日程	分野	単位数	備考
1	国際キャリア開発	8/26～28	キャリア形成	2	
2	Globalization and Society	3/6～8	グローバルな教養と日本の文化	2	

3-3. 「大学コンソーシアムとちぎオリジナル授業科目」

	授業名	学期	受入対象	単位数	備考
1	グローバル教育論	後期	他大学生、高校、生社会人	2	
2	ワークショップで学ぶ「変わりゆく現代社会と私たち」	前期		2	
3	ワークショップで学ぶ「ボランティアと市民活動」	後期		2	

3-4. 大学院生論文指導（国際学研究科博士後期課程）

	種別	学年	氏名・専攻	論文題目
1	副指導	D1	増山貴子・国際学研究専攻	児童養護の国際比較：脱施設化の中での支援のあり方

3-5. 大学院生論文指導（国際学研究科博士前期課程）

	種別	学年	氏名・専攻	論文題目
1	主指導	M2	孔媛媛・国際交流研究専攻	中日における大学進学機会の地域間格差に関する一考察：高等教育の学生募集制度とその経年変化に着目して
2	副指導	M2	于遠・国際交流研究専攻	中国農村の「留守児童」における NPO の役割と課題についての考察：草の根 NGO 「森の天使」による「留守児童」への支援活動を事例に
3	副指導	M2	川島賢・国際交流研究専攻	「主体的・対話的で深い学び」を目指す高校国語教育についての一考察：現代文教材「舞姫」の実際の授業とその分析を通して「主体的で対話的な深い学び」の可能性を探る
4	副指導	M1	項馨磊・国際交流研究専攻	企業による NGO への社会貢献に関する研究：日中の企業と NGO の協力の事例から

3-6. 卒業論文指導（国際学部）

	種別	氏名・専攻	研究題目
1	指導・主査	瓦井来実・国際社会学科	感性の再考：現代社会における感性の醸成方法
2	指導・主査	葛原南美・国際社会学科	セクシャルハラスメントや性暴力に対する日本社会の認識と制度の不確かさ：誰もが性被害によって心も身体も傷つけないために
3	指導・主査	千葉和・国際社会学科	社会問題に及ぼす SNS の影響と今後の課題に関する一考察：目黒女児虐待死事件をめぐる Twitter 上の議論を事例として

4	指導・主査	山本絵理・国際文化学科	子どもたちの主体性を育む賞が悪口英語の実践に向けて：学習意義の理解の観点から
5	副査	熊谷春香・国際社会学科	フィリピンの貧困削減におけるマイクロファイナンスの有効性と成立条件
6	副査	鈴木未来・国際社会学科	自由と責任から見る生産・消費：企業と消費者の関係構築への提案
7	副査	岡本菜摘・国際文化学科	メキシコ社会におけるホモフォビアへのカトリックの影響：ホモフォビアとセクシズムの関係を踏まえて
8	副査	小泉晴香・国際文化学科	第三の居場所づくりの考察：意義・課題・新たな居場所の可能性
9	副査	坂井友亮・国際社会学科	C S R 活動に対する一考察：マングローブの植林活動を事例として

3-7. 研究生研究指導

	氏名	研究期間	研究題目
1	王文奇	2018.4～2019.3	日本及び台湾の仏教慈善事業の展開及び交流に関する研究：慈済会日本支部の社会活動を中心に
2	王思雨	2018.10～2019.3	21世紀グローバル社会に向けての日中両国の新たな政府開発援助における国際協力のあり方に関する研究

3-8. 非常勤講師

	出講先	科目名	学期	単位数	備考
1	早稲田大学文化構想学部	ボランティアとNPO・NGO	後期	2	全学共通副専攻

3-9. 出張講義

	実施校名	講義・授業のテーマ	実施日	備考
1	栃木県立栃木女子高校	大学出張講義「参加体験型授業：“地球にやさしい”ってどういうこと」	7月12日	国際学部出前授業
2	栃木県立佐野高校	「海外グローバル研修」課題研究発表コンテスト（会場：佐野市文化会館）	2月22日	S G H 事業、審査委員長を担当。

3-10. 講演・研修

	事業名・主催者	講義・研修のテーマ	実施日	備考
1	平成30年度「人権教育指導者専門研修」（主催：栃木県総合教育センター）	「人権教育の視点：“わたし”の中の“排除”と“包摂”～」	6月7日	対象：学校教員・社会教育主事など
2	2018年度上智大学コミュニティカレッジ「グローバル時代の“開発”を考える」	第6回「“平和な世界”ってどんな世界？～ガルトウングの平和論とセンの安全保障論」	6月17日	対象：一般市民
3	平成30年度「茨城県エコ・カレッジ」（主催：茨城県環境政策課）	第1回講座「ワークショップで考えるSDGsと持続可能な社会：私たちの暮らしと世界のつながりを考える」	6月22日	対象：一般市民など
4	平成30年度「佐野市人権教育指導者要請専門講座」（主催：佐野市教育委員会）	講義・ワークショップ「参加体験型で学ぶ人権問題：“わたし”の中の“排除”と“包摂”～」	9月4日	対象：関連部局職員・学校教員など

4. 学内活動

4-1. 各種委員会等

種 別	委員会・役職等	任 期	備 考
全学	留学生・国際交流センター・副センター長	2017 年度～現在	
	学務委員会・委員	2017 年度～現在	
	学生相談室・相談員	2017 年度～現在	
	国際インターンシップWG・メンバー	2016 年度～現在	
	ESD-GAPとちぎWG・メンバー	2016 年度～ 2018 年 12 月	
	SDGs ワーキンググループ (WG)・メンバー	2019 年 1 月～現在	
	学術国際委員会・委員	2018 年度～現在	
学部委員会	学部・研究科点検・評価委員会・委員	2017 年度～現在	国際学部
	学部教員評価委員会・委員	2017 年度～現在	国際学部
	国際キャリア教育プログラム運営委員会・委員	2013 年度～現在	国際学部
センター内	国際交流部門担当	2013 年度～現在	
	「研究論集・センター年報」編集担当	2014 年度～現在	

5. 学外活動

5-1. 学会活動

学 会 名	役 職 名	備 考
日本 ESD 学会	会員・学会誌副編集委員長	
日本社会教育学会	会員	
日本環境教育学会	会員	
国際開発学会	会員	
International Editorial Board for International Journal of Development Education and Global Learning	International Editorial Board Member	

5-2. 委嘱委員

組 織 等	役職・活動名等	備 考
佐野市人権推進審議会	委員	
公益財団法人 日本 YMCA 同盟	「地球市民育成プロジェクト」リソースパースン	
公益財団法人 生協総合研究所	「アジア生協協力基金」運営委員	
公益信託 今井記念海外協力基金	諮問委員	

5-3. その他の学外活動（団体役職等）

組 織 等	役職・委員会名等	備 考
認定特定非営利活動法人 開発教育協会	副代表理事	

活動実績：飯塚 明子

1. 研究課題

	課 題	小 課 題
1	国際協力と防災	海外の被災地（ベトナム、スリランカ等）におけるマルチアクター（政府、NGO、国際機関等）による防災分野の国際協力 防災分野の国際協力プラットフォームの構築
2	コミュニティ防災	国内外の被災地におけるコミュニティを核とした防災活動 郷土芸能と災害復興 フォーマル及びインフォーマルな防災教育

2. 研究活動および成果

2-1. 発表論文・著書

	著者名	論文名・著書名	掲載雑誌等、または出版社	巻・号、頁	年月
1	Akiko Iizuka	The nature and characteristics of Japanese NGOs in international disaster response (査読付論文)	Disaster Prevention and Management: An International Journal, Emerald Publishing	27 (3), pp.306-320	2018/6
2	飯塚明子	防災集団移転－気仙沼市浦島地区の事例－	地域安全学会東日本大震災特別論文集	7巻、pp.65-68	2018/7
3	飯塚明子・田中樹	ベトナムのコミュニティ防災の実践と課題（研究報告）	「グローバル開発協力を考える」研究部会報告書、国際開発学会	pp.55-63	2018/7
4	飯塚明子・石田祐	災害復興と郷土芸能－ソーシャル・キャピタルの視点から（査読付論文）	地域安全学会論文集	33巻（10月）pp.33-41	2018/10
5	飯塚明子	災害弱者と多文化共生（分担執筆）	「多文化共生をどう捉えるか」下野新聞社	pp.86-87,157-160	2018/10

2-2. 学会および国際会議口頭発表

	著者名	発表題名	学会および会議名等	年月
1	Akiko Iizuka	Dynamics of Japanese NGOs in the context of Official Development Aid	2018 ARNOVA Asia Conference in Hong Kong –Evolving Government-Third sector relations in Asia-	2018/6/28
2	飯塚明子・田中樹	ベトナムのコミュニティ防災の実践と課題	「グローバル開発協力を考える－開発援助・国際協力を見直す－」研究部会、国際開発学会	2018/7/14
3	飯塚明子	防災集団移転－気仙沼市浦島地区の事例－	地域安全学会東日本大震災連続ワークショップ 2018	2018/7/19
4	飯塚明子・石田祐	災害復興と郷土芸能－ソーシャル・キャピタルの視点から－	地域安全学会研究発表会	2018/11/2
5	Akiko Iizuka	The nature and characteristics of Japanese NGOs in international disaster response	第 29 回国際開発学会	2018/11/24

2-3. その他

	著者名	論文名	掲載雑誌等、または出版社	巻・号、頁	年月
1	飯塚明子	唐桑の漁村にて（フィールドエッセイ）	フィールドで出会う風・土・人 4、総合地球環境学研究所	4巻 pp.21-24	2018/3

3. 教育活動

3-1. 講義

	講義・授業名	前期／後期	種別・対象学年	単位数	備考
1	災害に強いコミュニティづくり	前期	基盤教育	2	
2	日研生特別研究 II	前期	日本語・日本文化研修留学生	2	留学生・国際交流センター開講科目
3	栃木で考える防災と災害復興	前期	宇都宮大学公開講座	なし	1 コマ (第 4 回) 担当
4	3.11 学問の不確かさ	前期	基盤教育	2	1 コマ (第 13 回) 担当
5	Risk management	夏季集中	全学科目生	2	Learning+1
6	国際キャリア開発	夏季集中	全学科目	2	分科会「防災と多文化共生」担当
7	日研生特別研究 I	後期	日本語・日本文化研修留学生	2	留学生・国際交流センター開講科目
8	海外英語研修 (マレーシア)	後期	演習・全学科目	2	
9	国際インターンシップ	通年集中	全学科目	2	同 WG で運営

4. 学内活動

4-1. 取得研究費

種別	資金源・種別等	研究課題	代表者	金額 (千円)	期間
科学研究費	基盤研究 (C)	内発的復興を視野に入れた災害ボランティアコーディネーションシステムの構築	長谷川万由美	2,730	2016-2019
学内助成	異分野融合研究助成	仙台防災枠組 2015-2030 のコミュニティレベルにおける実現可能性に向けた研究	飯塚明子	300	2018/8-2019/3
学内助成	国際学術誌への論文投稿支援	The nature and characteristics of Japanese NGOs in international disaster response	飯塚明子	61	2019/1

5. 学外活動

種別	委員会・役職等	任期	備考
全学委員会	学術国際委員会・オブザーバー	2018 年度	
	留学生専門委員会・委員	2018 年度	
	キャリア教育・就職支援センター会議・オブザーバー	2018 年度	
	国際インターンシップ・ワーキンググループ・メンバー	2018 年度	新規派遣先機関開拓のため、夏季にタイとマレーシアに出張
	ESD-GAP とちぎワーキンググループ・メンバー	2018 年 12 月まで	
センター内	SDGs ワーキンググループ・メンバー	2019 年 1 月より	
	留学生指導相談委員	2018 年度	
	広報委員	2018 年度	

6. 学外活動

6-1. 学会活動

学会名	役職名
Association for Research of Nonprofit Organizations and Voluntary Action	会員
国際開発学会	会員
地域安全学会	会員

6-2. 委嘱委員

組織・活動名等	役職名
Disaster Prevention and Management: An International Journal, Emerald Publishing	査読協力者
United Nations' Office for Disaster Risk Reduction (UNISDR) Global Assessment Report 2019	査読協力者

6-3. その他の学外活動（出張講義）

	実施校名	講義・授業テーマ	年 月	備 考
1	栃木県立佐野東高等学校	No one left behind: SDGs と防災	2018/6/15	佐野東高等学校一日大学
2	栃木県立佐野高等学校	課題研究中間発表報告会	2018/7/12	
3	福島県立郡山高等学校	Inclusive Action Agenda: Sustainable Development Goals	2018/10/25	
4	栃木県立佐野高等学校	「海外グローバル研修」課題研究発表コンテスト（会場：佐野市文化会館）	2019/2/22	審査委員

IV 資 料

1 留学生在籍状況

(1) 留学生種別在籍者数 (2018年5月現在)

種 別	所 属	人 数	小 計
学部留学生	地域デザイン科学部	4	57
	国際学部	21	
	教育学部	3	
	工学部	18	
	農学部	11	
大学院留学生	国際学研究科	51	108
	教育学研究科	4	
	工学研究科	37	
	農学研究科	7	
	連合農学研究科	9	
研究生	地域デザイン科学部	3	33
	国際学部・国際学研究科	20	
	教育学部・教育学研究科	5	
	工学部・工学研究科	1	
	農学部・農学研究科	3	
	連合農学研究科	0	
	留学生・国際交流センター	1	
特別聴講学生 (協定校との交換留学生)		44	44
日本語・日本文化研修留学生		6	6
教員研修留学生		1	1
日韓理工系学部留学生		0	0
科目等履修生		0	0
合 計		249	249

(2) 国・地域別留学生数 (国・地域数：24カ国・地域)

国 名	人 数	国 名	人 数	国 名	人 数
中国	141	ネパール	2	ボツワナ	1
マレーシア	21	ガーナ	2	ラオス	1
ベトナム	16	アメリカ	1		
韓国	20	イギリス	1		
台湾	10	ウズベキスタン	1		
モンゴル	6	エジプト	1		
インドネシア	5	エチオピア	1		
カンボジア	4	ケニア	1		
タイ	4	スリランカ	1		
バングラデシュ	4	タジキスタン	1		
インド	3	チェコ	1	合 計	249

2 国際交流協定校との受入・派遣状況一覧

(1) 学生の大学間交流協定校との受入・派遣実績 (2019 年 3 月現在)

大学間交流協定校名	国名	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	計
浙江工業大学	中国	受入	1	2	1	0	1	5
		派遣	0	0	0	0	0	0
カセサート大学	タイ	受入	2	4	1	3	4	14
		派遣	3	3	4	3	2	15
復旦大学	中国	受入	0	0(1)	0	0	0	0(1)
		派遣	1	0	0	0	0	1
ビクトリア大学	オーストラリア	受入	0	0	0	0	0	0
		派遣	2	1	0	0	0	3
祥明大学校	韓国	受入	2	4	4	4	4	18
		派遣	2	3	4	4	1	14
ノーザン・ブリティッシュ・コロ ンビア大学	カナダ	受入	0	0	0	0	0	0
		派遣	1	1<1>	1<1>	1<1>	1	5<3>
電子科技大学	中国	受入	2	2	2	3	2	11
		派遣	0	0	0	0	0	0
エアランゲン・ニュールンベルク・フ リートリッヒ・アレクサンダー大学	ドイツ	受入	1	1	1	0	0	3
		派遣	4	3	3	4	3	17
浙江師範大学	中国	受入	3	3	2	3	3	14
		派遣	0	0	0	0	0	0
浙江大学	中国	受入	0	0	0	0	2	2
		派遣	1	1	1	1	2	6
内蒙古農業大学	中国	受入	0	0	0	0	0	0
		派遣	0	0	0	0	0	0
ボゴール農科大学	インドネシア	受入	0	0	0	0	0	0
		派遣	0	0	0	0	0	0
寧波大学	中国	受入	4	4	4	4	4	20
		派遣	0	1	0	0	0	1
国立台湾師範大学	台湾	受入	2	4	3	4	4	17
		派遣	2	1<1>	2	2	2	9<1>
香港大学	中国	受入	1	1	0	0	1	3
		派遣	2	3	1	2	0	8
国立政治大学	台湾	受入	1	1	1	1	1	5
		派遣	2	2	1	1	1	7
パラツキー大学	チェコ	受入	1	1	2	1	1	6
		派遣	2	2	2	2	2	10
モンゴル人文大学	モンゴル	受入	0	0	0	0	0	0
		派遣	0	0	0	1	0	1
ダッカ大学	バングラデシュ	受入	0	0	0	0	0	0
		派遣	0	0	0	0	0	0
モンゴル生命科技大学	モンゴル	受入	0	1	0	1	1	3
		派遣	0	0	0	0	1	1
天安蓮庵大学	韓国	受入	0	0	0	3	0	3
		派遣	0	0	0	0	0	0
ノースダコタ大学	アメリカ	受入	0	0	0	0	1	1
		派遣	0	0<1>	0	0	0	0<1>
オルレアン大学	フランス	受入	0	0	0	0	0	0
		派遣	2	3	3	2	1	11
アジア工科大学	タイ	受入	0	0	0	0	0	0
		派遣	0	0	0	0	0	0
全北大学校	韓国	受入	1	2	1	3	3	10
		派遣	0	0	1	0	0	1
東フィンランド大学	フィンランド	受入	0	0	0	0	0	0
		派遣	0	0	0	0	0	0
慶北大学校	韓国	受入	0	0	2	3	0	5
		派遣	1	1	0	1	0	3
トライン大学	アメリカ	受入	0	0	0	0	0	0
		派遣	2	2	2	2	2	10
アイルランド国立大学ダブリン校	アイルランド	受入	0	0	0	0	0	0
		派遣	0	0[1]	0	0	0	0[1]
王立ブノンペン大学	カンボジア	受入		1	3	2	3	9
		派遣		0	3	2	3	8

ヴァインセンス大学	アメリカ	受入			1	0	0	1
		派遣			2<1>	2	2	6<1>
ポンティフィシアカトリック大学	ペルー	受入				0	0	0
		派遣				1	1	2
ガーナ大学	ガーナ	受入					1	1
		派遣					1	1
合 計		受入	21	31(1)	28	35	36	151(1)
		派遣	27	27[1]<3>	30<2>	31<1>	25	140[1]<6>

注1 斜線は、協定未締結を示す。

注2 []は、ダブルディグリープログラムによる派遣で外数。

注3 <>は、私費留学による派遣で外数。

注4 ()は、特別研究学生としての受入で外数。

(2) 学生の部局学間交流協定校との受入・派遣実績 (2019年3月現在)

大学間交流協定校名	国名	部局	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	計
国立暨南国際大学(人文学院)	台湾	国際学部	受入	1	3	2	0	2	8
			派遣	0	0	0	0	0	0
東華大学(環境科学与工程学院)	中国	工学部	受入	0	0	1	0	0	1
			派遣	0	0	0	0	0	0
龍華科技大学(工程学院, 電資学院)	台湾	工学部	受入	0	1	2	0	3	6
			派遣	0	0	0	0	0	0
釜慶大学校(人文社会科学大学)	韓国	国際学部	受入	1	1	3	1	2	8
			派遣	0	1	0	1	1	3
イルクーツク国立言語大学(国際事務局)	ロシア	国際学部	受入	0	0	0	0	0	0
			派遣	0	0	0	0	0	0
キングモンクット工科大学トンブリー校(生物資源工学研究科)	タイ	農学研究科	受入	0	0	0	0	0	0
			派遣	0	0	0	0	0	0
齊齊哈爾大学(外語学院)	中国	国際学部	受入	2	2	2	2	2	10
			派遣	0	0	0	0	0	0
ダマスカス大学(人文学部)	シリア	国際学部	受入	0	0	0	0	0	0
			派遣	0	0	0	0	0	0
セントラル・ランカシャー大学	イギリス	国際学部	受入	0	1	2	1	3	7
			派遣	0	1	1	2	3	7
ポンティフィシアカトリック大学(人文学部・社会科学部)	ペルー	国際学部	受入	0	0	0			0
			派遣	1	0	0			1
国立台北大学(人文学院)	台湾	国際学部	受入	0	0	0	0	1	1
			派遣	0	1	0	0	0	1
コリマ大学(政治社会学部)	メキシコ	国際学部	受入	0	0	1	0	2	3
			派遣	0	1	1	2	0	4
遼寧科技大学(機械工程与自動化学院, 電子与信息工程学院, 材料科学与工程学院)	中国	工学部	受入	1	1	0	1	1	4
			派遣	0	0	0	0	0	0
ハノイ大学	ベトナム	国際学部	受入	2	2	2	2	2	10
			派遣	0	2	2<1>	0	2	6<1>
トリア大学(第Ⅱ哲学部)	ドイツ	国際学部	受入	2	2	2	0	2	8
			派遣	1	3	2	3	2	11
華東理工大学(機械与動力工程学院)	中国	工学部	受入	0	0	0	0	0	0
			派遣	0	0	0	0	0	0
国立暨南国際大学(教育学院)	台湾	国際学部	受入	0	2	1	2	1	6
			派遣	0	0	0	0	0	0
パラデニヤ大学	スリランカ	国際学部	受入			0	0	0	0
			派遣			3	1	1	5
ガーナ大学	ガーナ	農学部	受入			0	0		0
			派遣			0	0		0
ブルサ工科大学	トルコ	農学部	受入			0	0	0	0
			派遣			0	0	0	0
東フィンランド大学 ※DDPのみ部局間扱い	フィンランド	工学研究科	受入	0	0	0	0	0	0
			派遣	0	0	0	0	0	[1]
ランブンマンクラット大学	インドネシア	農学部	受入			2	0	0	2
			派遣			0	0	0	0
カンボジア王立農業大学	カンボジア	農学部	受入			0	0	0	0
			派遣			0	0	0	0
合 計			受入	9	15	20	9	21	74
			派遣	2	9	9<1>	9	9	38<1>

注1 斜線は、協定未締結(部局間協定から大学間協定への移行を含む)を示す。

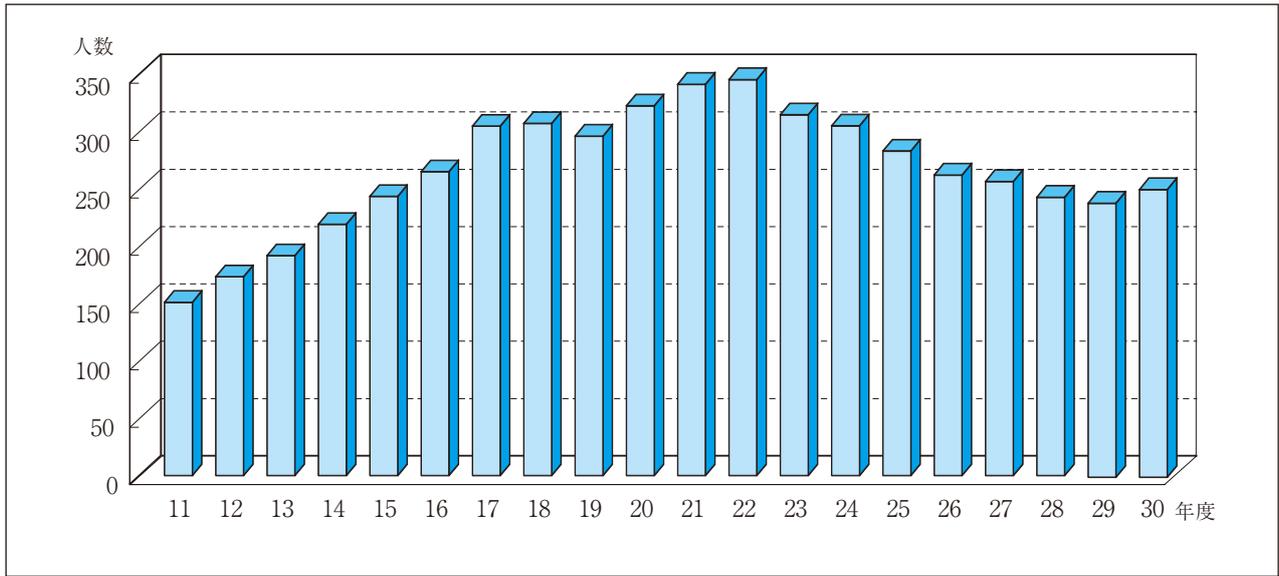
注2 []は、ダブルディグリープログラムによる派遣で外数。

注3 <>は、私費留学による派遣で外数。



(3) 留学生数の推移

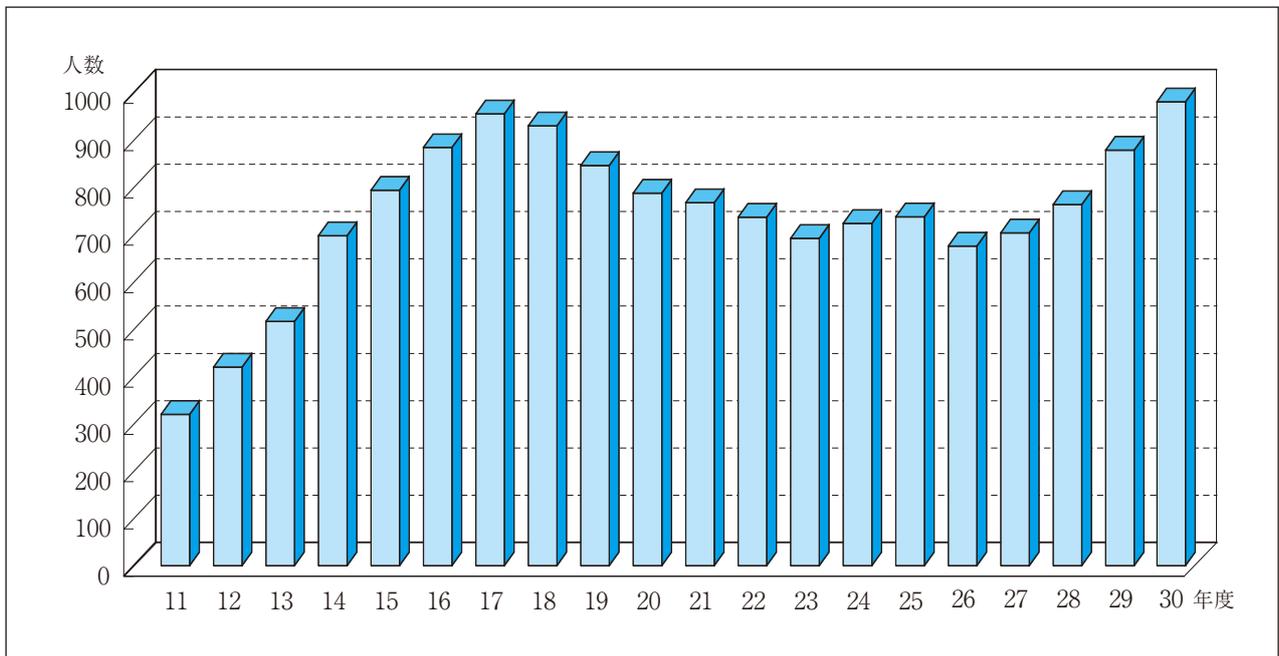
[各年 5 月 1 日現在]



年度	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年
人数	153	176	193	221	244	264	303	306	295	322	340	345	313	305	284	263	257	244	237	249

(4) 栃木県内高等教育機関に在籍の外国人留学生数の推移

[各年 5 月 1 日現在]



年度	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年
人数	318	422	518	697	795	884	956	928	846	788	768	737	693	722	739	677	703	767	877	980



3 留学生・国際交流センターの発行物

- (1) 『平成 30 年度日本語科目授業案内 (Course Descriptions)』 (2018 年 4 月)
- (2) 『宇都宮大学留学生教育研究論集第 9 号 留学生・国際交流センター年報 2017 年度』 (2018 年 8 月)
- (3) 『2017 年度日本語・日本文化研修留学生研修論文集』 (2018 年 12 月)

宇都宮大学
留学生・国際交流センター年報 2018年度

発行日：令和元（2019）年8月1日

編者：宇都宮大学留学生・国際交流センター
（編集担当：湯本浩之・飯塚明子）

発者：宇都宮大学留学生・国際交流センター
〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町 350
<担当部局>学務部留学生・国際交流課
TEL: 028-649-5099 FAX: 028-649-5115
Email: ryuugak1@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp
URL: <http://intl.utsunomiya-u.ac.jp/index.html>

レイアウト・印刷：株式会社アートプレス